埼玉大学紀要　教育学部，67(2)：241－271（2018）

# 人種的民族的偏見は克服されたか

## ―「デフォルメ」を通して見る現代の人種的民族的偏見と差別―

坂　西　友　秀　　埼玉大学教育学部

キーワード：人種　民族　偏見　デフォルメ　サンボ　絵本　開国

## 目的

「人種」や「民族」に関わる偏見や差別は克服されてきているのであろうか。ITの急速な発達と利用者の拡大は、国境を越えて加速している。地球の裏側で起こる社会的な事件や問題は、瞬時に全世界に拡散する。Face Book, Instagramなど多様なSNS（Social Network System）が開発・活用され、コミュニケーションの「道具（手段）」の盛衰は目まぐるしく変遷する。これだけ人々の交信手段が発達し、情報の交換が容易になった現在、私たちの親交、相互理解と信頼は、果たして以前に増して深まっているのであろうか。

残念ながらそのように断定できる材料は少ない。むしろ、「人種」や「民族」の違いを私たちが強く意識し、そこに横たわる溝は深い。お互いに対する反感や憎悪、敵意が今でも人々の心に浸透していて、「人種」や「民族」の差別や偏見に関わる事件が後を絶たない。

日本国内を見ても、ヘイトスピーチは民族的反感を表し、肌の色を「笑いのネタ」にすることは、人種的差別・偏見が根強く存在することを示している。「『殺せ…』『ゴキブリ』『日本からたたき出せ』、…外国人が多く暮らす東京都内の繁華街でデモがあり、そんなシュプレヒコールが飛び交った。デモは特定の外国人を排斥する目的でインターネットで告知され、男女100人以上が参加した。」（毎日新聞，2013）。「参加者もほとんどが一般人」であると報道され、特定の集団に限定された行動ではない。

その後本邦外出身者に対する差別的言動を禁止する法が制定され施行されていることに、事態の深刻さが現れている。前文で立法の趣旨が示されている。「我が国においては、近年、本邦の域外にある国又は地域の出身であることを理由として、適法に居住するその出身者又はその子孫を、我が国の地域社会から排除することを煽動する不当な差別的言動が行われ、その出身者又はその子孫が多大な苦痛を強いられるとともに、当該地域社会に深刻な亀裂を生じさせている。もとより、このような不当な差別的言動はあってはならず、こうした事態をこのまま看過することは、国際社会において我が国の占める地位に照らしても、ふさわしいものではない。ここに、このような不当な差別的言動は許されないことを宣言するとともに、更なる人権教育と人権啓発などを通じて、国民に周知を図り、その理解と協力を得つつ、不当な差別的言動の解消に向けた取組を推進すべく、この法律を制定する」。具体的にはどのような言動と、それが向けられる対象を指すのであろうか。定義を見ておくことは重要である。「（定義）第二条　この法律において「本邦外出身者に対する不当な差別的言動」とは、専ら本邦の域外にある国若しくは地域の出身である者又はその子孫であって適法に居住するもの（以下この条において「本邦外出身者」という。）に対する差別的意識を助長し又は誘発する目的で公然とその生命、身体、自由、名誉若しくは財産に危害を加える旨

を告知し又は本邦外出身者を著しく侮蔑するなど、本邦の域外にある国又は地域の出身であることを理由として、本邦外出身者を地域社会から排除することを煽動する不当な差別的言動をいう」。定義では、特定の「民族」や「人種」、「国」が明記されているわけではない。広く「外国人」を対象としたことばや行動による暴力的、差別的な攻撃一般を指していることが重要である。この法に罰則はないが、日本人であれ外国人であれ人権を尊重し、差別を禁じているのである。

「人種」差別や偏見が存在することは、法務省の調査からも明らかである（法務省，2017）。「外国人であることを理由に入居を断られた」（39%）、「排除するなどの差別的な記事や書き込みを見た」（42%）等が報告されている。偏見や差別は、「民族」や「人種」に限られるものではない。「障害者に関する世論調査」（内閣府，2017）では、84%の人が「障害を理由とする差別や偏見がある」と答えている。そのほかにも性や疾病に関わる差別・偏見も克服されていない。自らは特定の人々に対する偏見は持たず、差別もしていないと多くの人が自認している。しかし、一般には偏見や差別は、存在していると認識しているのである（坂西，2008）。

本研究では、私たちが、日頃何気なく生活している中で、差別・偏見に関わる問題が身近に存在することを「例証する」ことを目的とする。「例証」に当たっては、差別偏見の対象を「人種」問題に絞って検証する。ここでは「絵本」を検証の資料にする。「絵本」を分析対象にした主な理由は次の３点である。①「絵本」は、偏見・差別意識がないまたは自覚がない幼児・子どもが愛読するものであること、②「絵本」は絵・イラストを通してキャラクター（登場人物や主人公）を象徴的･典型的に描くことが多く、差別あるいは偏見が描写に反映されやすいこと、③日本では「人種デフォルメ」によって視覚的に確認できる形で「人種的偏見（または差別）」が表現され、再三社会問題化して今日に至っていて、絵本はその体表的なものの一つであること。なお、偏見や差別に至らずとも、特定の民族や「人種」、さらには集団に対して個人の人権を無視して、その集団の成員が共通した属性、特徴、性質を持つと強く認知することが私たちにはある。これは、ステレオタイプの認知である。本研究では、このステレオタイプの認知を絵本に描写された特徴的・象徴的・強調的、または典型的描写（デフォルメ）を精査・検証することで、現代社会に深く浸透し偏見や差別に結びつきやすい「民族的」「人種的」ステレオタイプの存在を明らかにする。

ステレオタイプの存在そのものは、差別と偏見と同じものではないが、それらに結びつく可能性があるので軽視することはできない。人種的差別・偏見が存在するか否かを判別することは単純にはできないが、「人種」ステレオタイプあるいは「人種的差別・偏見」の問題に関わる大衆的な事例は最近でも起きている。「お笑い芸人が黒人俳優に扮する際に顔を黒く塗る「ブラックフェース」をしたことに対し、批判の声が広がっている」（朝日新聞，2018）。肌の色の違いを笑いの対象にした人権侵害の問題であり、「人種的」偏見と差別の問題である。「人種」ステレオタイプに基づく差別と偏見の横行は日本に限らない。「『Ｈ＆Ｍ』」（スウェーデンの衣料品大手）が広告で『ジャングルで最もかっこいいサル』と胸に書かれた服を黒人少年のモデルに着せた写真を掲載していたことが判明し、『黒人に対する人種差別だ』との批判が噴出しました」（TBSニュース，2018）。「黒人」とサルを同列視し蔑視している。いずれも「人種」の違いを「肌の色」で強調・誇張し、「劣等性」を表現している。身体的特徴や外見的な違いを根拠にした偏見や差別が、今でも私たちの日常で起きているのである。こうした偏見や差別の背景には、私たちの外観の違いで蔑視し、誇大に「デフォルメ」して表現する心理が働いていると考えられるのである。

## 方法

**分析対象**　「人種的」「民族」的偏見を示す描写は、漫画・コミック、書籍の挿絵、絵本の登場人物、等々、さまざまな刊行物で確認することができる（坂西，20013）。本研究では、描写・表現が人種的偏見・差別を含んでいるとして問題が生じた絵本「ちびくろさんぼ」を中心資料として取り上げることにする。「ちびくろさんぼ」は数多く出版されてきた。既刊のすべてを収集し取り上げることは困難である。そこで本研究は、図書館が保有する資料、古書店で入手できた本等、筆者が入手できた著書に限定した分析である。

**分析方法**　本研究では、「人種」や「民族」に関わる偏見・差別に結びつく「身体的特徴」の強調または誇張された描写（デフォルメ）に着目し、それらの特徴に該当する描写が絵本・資料に認められるか否かを個別に吟味する。「人種的」、「民族的」デフォルメが描写に認められる事例を積み重ねることによって、「人種的」・「民族的」ステレオタイプが社会一般に浸透してきたことを明らかにする。事例による例証では、数量的な結果の分析ではなく、描写を具体的に提示して「デフォルメ」の含む意味を明らかにすることを基本にする。

## 結果（例証）

### 1　日本における「人種デフォルメ」の歴史的経過と定着

日本人が西洋人の白人・黒人に接したのは、日本にキリスト教の宣教師が来たときである。宣教師たちは、黒人をかなりの数従えて布教活動をしていた。当時の様子がそのまま描かれているか否かはわからないが、大まかな様子は南蛮絵を見るとうかがい知ることができる。長崎の丸山では、遊郭に黒人が身を隠して出入りし、大騒動になった逸話も残っている。また、出島あたりでは、日本人と黒人が言い争い、喧嘩になり、とがめを受ける事件も起きていた。織田信長は、初めて黒人に接したときに非常に珍しがり、人間として見ていなかった様子が、宣教師の報告に書かれている。16世紀頃の白人観と黒人観は現在のものとは異なっていた（坂西，2005）。「白人は下の存在として見られていたが、欧米人の奴隷、召使いという低い地位として日本に連れてこられた黒人は、白人よりさらに低い地位にあった」（ラッセル，1991，1995）。

17世紀から19世紀の鎖国は、海外との交流を極端に制限することになり、外国人と接する機会は一般には全くなかったといってよい。「日本人の黒人観が西洋人の黒人観と意外によく似ているということに驚愕した。黒人のいわゆる『人種的身体的特徴』の卑屈な戯画にせよ、黒人を形容する言葉にせよ、いずれも、その中身は西洋白人が長い間抱いていた固定化された黒人観と根本的に変わりがない」（ラッセル，1991，1995）という。ラッセル（1991，1995）が分析するように、「西洋の場合、奴隷制度や黒人に対する弾圧や搾取を正当化するために、そうした（黒人は「怠けもの」「頭が良くない」「性欲が強い」「運動神経が優れている」「先天的なリズム感がある」「感情的」「攻撃的」「汚い」等）ステレオタイプを作り上げたが、黒人奴隷制や黒人の搾取の歴史のない日本が、黒人に対して欧米と同じようなステレオタイプを抱くようになったのはなぜだろうか。

**ペリーとミンストレル・ショー**　19世紀末に開国を迫るペリーの来航は、再び外国人と日本人との接触をもたらした。ペリーが通商を求め、幕府と交渉したときには、黒人は乗船していなかったという。交渉に当たって、幕府はもてなし饗応し対応に苦慮した。そのときの交流の席で、米

艦隊の乗組員は、当時大衆受けしたコミカルな出し物を披露した。それが、白人船員が黒人に扮して音楽に合わせて滑稽な踊り、出し物をするミンストレル・ショウであった。ミンストレル・ショウは、滑稽で「間の抜けた」黒人が、お笑いを演じる大衆芸能で、代表的な象徴的な「サンボ」の姿の一つであった。図1は、当時の艦船乗組員によるミンストレル・ショウの様子を描いた屏風である。東京大学所蔵の屏風に描かれたミンストレル・ショウには、表1に示した書き込みがある。弦楽器を演奏したこと、ショウは顔が真っ黒で唇が真っ赤な人々だったことなどが記されている。「日本の場合、白人支配者が提供した被支配者である黒人に関する一方的情報が、日本人の黒人観の形成に重大な役割を果たしてきた。要するに、日本人の黒人に関する情報は、白人を通して日本に入り、しかも白人の黒人に対する偏見にあふれた誤報であった。黒人は『猿の化身』や『文明を持っていない未開人』などという誤報が西洋文化と共に日本に入り、日本の蘭学者たちや知識層によって広められ、一種の常識として受け入れられた」(ラッセル，1991，1995)。ラッセルが指摘するこような西洋流の黒人観は、すでに日本国内に都市部を中心に観念的に広く流布していたのではないだろうか。ミンストレル・ショウは、こうした観念に実像を提示し、黒人差別と人種ステレオタイプ・偏見を固定化させ、定着させる役割を果たした最初の「興業」だった。

黒人奴隷は、アメリカ合衆国で「コミック演技者」として滑稽・お笑いの象徴となっていった。19世紀後半に日本で披露されたミンストレル・ショウは、黒人大衆芸能の一つだった。1860年代は、黒人の象徴的な姿は「ミンストレル芸能団・旅芸人」に現れていた。「場所はニューヨーク。しかし北部や西部の町や村であれば状況は同じであろう。一人の白人の男が鏡の前に座っている。劇場用の黒の塗料おけに手を突っ込み、次々とそれを顔に塗り広げていく。目は鏡の中の自分の顔が真っ黒になっていくのを見つめている。目だけは塗らないので広く円を描いている。口元は笑みをたやさない。それからちぢれたかつらをかぶり、ごちゃごちゃ色の混ざったおそろいのズボンとシャツを身に付け、モーニングコートに山高帽のいでたち、それこそが旅芸人サンボである。サンボは舞台に登場し、左右の観客にお辞儀をし、細長い紙切れを取り出して、聞き取れないほどのひどいなまりを丸出しにして辻説法よろしく「道化政治演説」を始める。演題は奴隷問題である」(ボスキン，2004，p.15)。サンボは知恵者ではなく、愚か者の道化の象徴として、黒人芸人のシンボルとして時代を生きてきたのである。奴隷制が廃止された後は、白人が黒人に扮して「黒人芸能団」を作り、道化を演じることが多かった。

日本人が初めてミンストレル・ショウを目にしたのは、ペリー艦隊が横浜に外交交渉に訪れたときだった。石井（1997a）は、「わが幕吏が、米使ペルリと、横浜にて応接せしとき、その席にありて親しく看守せるところを、率直に記述せるものなれば、公的以外の実況、歴々目睹するごとし」として、幕府官吏がペリーと交渉したときの様子の一部を採録している。その中に、ペリーが、日本の幕府関係者５人を船中に招き饗応した様子が書かれている。「二月戊戌、彼理我ガ五君ヲ饗セント欲シ、火船及ビ軍艦ニ迎フ」。ふんだんな肉料理と各種のアルコールが用意され、宴たけなわであった。「時ニ一人勃然一声シ、群声之ニ応和ス、亦只音ヲ一ニセズ、始メ一節有リテ、之ヲ和スル者有ル也（万歳ヲ祝シタルカ)。或イハ仰ギテ冒ヲ投ジ、又之ヲ取ル、各人亦タコレヲ為ス、而シテ喜色満願美ナリ。訳者云フ、此レ□声ヲ合シテ以テ我ガ衆ヲ饗スル也ト。我ガ衆亦以テ之ニ和ス。彼殊ニ喜色ヲ増ス。幕外鼓吹ノ者、始メヨリ連々□□□此ノ時、彼理ノ室中、殊ニ珍羞ヲ極メ、牛舌及ビ菜菓ノ各品有リ、五君亦□□□□□□各肉ヲ嗜ミ、且ツ各酒ニ酔フ。既ニシテ杯盤狼藉、彼レ忽チ其ノ下ニ命ジ、以テ絃歌ヲ奏セシム。其□□□□面ニ塗リ、朱ヲ以テ唇ヲ染メ、獣毛ヲ以テ鬟ヲ作リ、各花紋ノ衣ヲ脱シ共ニ九人ナリ、連ナリテ床几ニ倚リ、以四□□□或ハ阮

咸ノ物ノ如ク、或イハ弓或イハ鼓笛ノ類ヲ鼓シ、而シテ倡歌ヲ和ス。其ノ調べ略清楽ニ類ス。或イハ金音ヲ作シ、或イハ鈴鳴ヲ作ス、□其ノ急所、乍チ断ジ、両人相見テ辞有リ、其ノ滑稽ノ俚語ナルヲ知ル。或イハ異形ノ面ヲ作シ、開口閉目シテ舌ヲ吐ク。亦惟墨面朱口、両人乍チ其レヲ抛チ、立チテ相対シ、脚頭ヲ以テ漫舞ス、或イハ時ニ一足ヲ翅テ飛走ス、其ノ疾キコト乱蝶ノ如シ。而シテ皆節ニ合スル者ナリ、彼理ハ喜怒常ニ色ニ見ハサズ。此ノ時拍手シテ大イニ笑ヒ、頗ル、歓楽ヲ極ム。其ノ曲其ノ情何等ノ滑稽カ、未ダ察ス可カラズ、只唖シテ頷ヲ解カント欲スルノミ。

図１　ミンストレル・ショー
（神奈川県立歴史博物館，2003より）

表１ ミンストレル・ショウ

| |
|---|
| 船中弦歌之圖 |
| 黒面朱唇 |
| 服吏紗殿引 |
| 縞白藍立格 |
| カムリ毛ノ何也 |
| 薄赤色ニテ皮ナリ |

注：「ミンストレル・ショウ」屏風の添え書き

図２　「黒船バンジョー」
（朝日新聞，2004年３月２日）

知ラズ此ノ戯曲ニ至ル、殆ド我ヲ愚弄スル者カ。…」。饗応の余興として、白人が黒人に扮装し仮装して、ミンストレル・ショウが披露されたことが記されている。

**ミンストレル・ショーと「サンボ」**　表１は、ミンストレル・ショウの様子を描いた屏風絵である（神奈川県立歴史博物館，2003）。東京大学史料編纂所所蔵の「ペリー渡来図貼る交屏風」には、幕府役人を饗応する黒塗り水夫たちのミンストレル・ショウが描かれている。屏風の絵には表１の添え書きが付されている。「黒人」に扮して、滑稽に演じる様を、当時の日本人が、どのように受けとめたかを示していて興味深い。現在にも通じる日本人の「黒人」に対するステレタイプを認めることができる。

上述のように、表１の説明書きを見ると、ここにはすでに、「黒人」蔑視し、身体的特徴をことさら強調し、人種差別･偏見を当然視する社会が映し出されている。「黒面朱唇」の表現は、顔を真っ黒に塗布し、目だけを丸く塗り残した「黒人」、唇をことさら真っ赤に彩色した「黒人」の象徴化されたステレオタイプを思い起こさせる。

図１の描写と表１の添え書きを合わせてみると、「黒人」の特徴の象徴化、デフォルメが明瞭になる。白人が黒人に扮装した姿が描き出され、「服吏紗殿引 縞白藍立格 カムリ毛ノ何也」の添え書きが、ミンストレル芸能団、旅芸人サンボの特徴そのものを示すものである。デフォルメした黒人の身体的特徴を白人旅芸人がメークによって変装し演じる。それを嘲笑・揶揄しながら観客が楽しむといった欧米文化が、船上でのショウ・娯楽を通じて演出され、黒人に対する固定観念のなかった幕末・明治初期の日本人に伝えられている。楽器を持ち、リズミカルな動きを連想させる絵は、「先天的なリズム感がある」というステレオタイプの黒人像を暗黙の前提にしているのである。図２は日米の親善交流が始まって150年を記念して「ミンストレル・ショウ」を当時を再現して演じる、との新聞記事である。この船上でのイベントが、当時強烈な印象を日本人、とりわけ外交交渉を行う役人に与えた歴史的なできごとであったことを、150年経った今この記事は証明している。黒人は乗船していなかったことからも、白人が黒人に扮装してバンジョーに合わせてエンターテーナーを務めたことなる。上述の東京大学史料編纂所所蔵の「ペリー渡来図貼る交屏風」

にある書き込みは、カツラをかむり、「黒人」様に化粧し仮装した「白人」を示唆していることからもこのことはわかる。ミンストレル・ショーが、「黒船バンジョー」を目の当たりにした役人らに与えた衝撃の強さと「黒人」ステレオタイプ形成への影響の大きさを記事は伝えている。

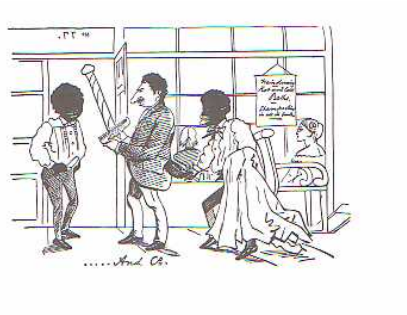

図３　理容店（芳賀徹・酒井忠康・清水勲・川本晧嗣・新井潤美，2002）

図４　カルピスのコマーシャルの「黒人」（心理學研究會，1924より）

**「黒人」ステレオタイプの定着**　黒人に扮した白人によるミンストレル・ショウがアメリカでさかんに興業されていた1860年代、ほぼ同時に日本にも黒人蔑視の欧米文化は定着しつつあった。黒人を描写する際に、デフォルメすることが一般化していたことが、別な資料からもわかる。当時の日本の風俗を描いたワーグマン（芳賀他，2002）を見てみよう。図３は、1860年代の日本にいた外国人を描いたものである。このワーグマンの素描にも真っ黒な顔をし、部厚い唇をした「黒人」らしき男と、西洋の「白人」風の男が描かれている。理髪店の風景だという。「温水浴・冷水浴もできる全身美容の店か。店前に赤・青・白のねじり棒が見えるから理髪店でもある。人が集まる所に髪結い・床屋・理髪店は必ずできる。日本に西洋式床屋が生まれたのはまず、外国人居留地である。横浜では、一八六四（元治元）年には理容室と美容室を兼ねた店が登場した」（芳賀他，2002）という。ここで注目したいのは、「黒人」風の男性の髪は「ちぢれ」、唇は「部厚く」、顔は「真っ黒く」、目だけが白く強調されていることである。「黒人」を特徴図づけるこれらのデフォルメは、現在もよく行われるものである。19世紀の中頃には、開国を迫られると同時に、欧米流のステレオタイプの「黒人」描写が日本に広く流布し、黒人蔑視と偏見に結びつく土壌が形成されていたことを示すものであろう。さらに時代が下り、定型的な黒人像は、コマーシャルにも利用され、大衆に受容されていくことになる。

図４は、大正13年（1924）に発行された「心理研究」に掲載された「カルピス」の広告である（心理學研究會，1924）。カルピスを飲む帽子をかぶった「黒人」が、前述の「黒人」ステレオタイプに合致する容姿でカリカチュアされている。「黒人」ステレオタイプが民衆の間に、商品の宣伝広告を通じて広まっていったことを示唆している。

**「サンボ」の語源**　「サンボ」の由来と移り変わりは、既述のように、まさに奴隷貿易の開始と植民にあり、「サンボ」のもつ社会的意味と人々に与えるイメージは、「黒人奴隷」の生活史、社会史そのものである。「ちびくろさんぼ」を現代風によみがえらせたレスターとピンクニー（ジュリアス・レスターとジュエリー・ピンクニー）（1997）は「サンボ」について次のように述べている。「自然と同じように社会も『適者生存』という原則に支配されているとするのが、この自然淘汰説です。おまけに、白人が一番の「適者」でアフリカ人の子孫である黒人は最も「不適」だということは、歴史が証明しているのだと言われていました。意図的かどうかは別としても、「リトル・ブラック・サンボ」は、アフリカ人の顔つきを誇張した絵と、17世紀初頭から黒人に対する蔑称

としてサンボという名前によって白人の方が優秀だという考えを強化することになりました。…サンボという名前とその描かれ方によって英雄の要素は弱められていたのも確かです。…新たな語り方をするためには、考え方を立て直すことが必要でした。歴史的なお荷物をおろして、しかも面白さを保つにはどうすればよいのでしょう？…最後の問題は絵でした。人種差別的な要素があるにもかかわらずジュエリーはバンナマンの絵に神秘的な物を感じていて、それに匹敵するものを描こうとしていました」。名前と描写に問題があると指摘しているが、「サンボ」の名前の由来はどこにあるのであろうか。

サンボが有名になるに至ったいくつかの歴史的事実があるという（ボスキン，2004，p.63）。一つは、イギリスの大衆文化の中で「サンボ」は滑稽に使われてきたことである。それがアメリカに渡り、奴隷時代以降「サンボ」は白人が滑稽と感じた者には誰にでも当てはめた名前になった。もう一つの最も可能性の高い語源は、スペイン語の「ザンボ」（16世紀）である。スペイン語文化圏でO脚、X脚を表すことばだ。O脚、X脚をした「ザンボ」は、猿のような人を表す。…人間とけものを結びつけて悪口にする、特に猿とアフリカ黒人を結びつける悪口は歴史に語源を求めることができる。…人類学者のピエール・ヴァン・デン・バーグが第二次世界大戦後、…ベルギー人がコンゴ人を指して『マカーク』を言っていたのを観察しているアカゲザルを意味することばである。それはスペイン人もポルトガル人もともにアフリカ人を『ザンボズ』と呼んで見下していたからだった。イギリス人が『ザンボズ』から『サンボ』へ翻訳したと考えても言い過ぎではなかろう」（ボスキン，2004，p.64）。ボスキン（ボスキン，2004，p.64）は、ギリシャ語の「スカンボス（skambos）」（がにまた）、ラテン語のスカンプス（scambus）からスペイン語の「ザンボ」になったと推測している。「サンボ」は文字通りに言えば、人種差別的な意味で使われていた。つまり、ラテン系アメリカ人の社会では、「ザンボ」・「サンボ」は、混血して白人の血が混ざり皮膚の色がやや白い人を指す。混血は、黒人とインディアン、黒人とヨーロッパ人、黒人と黒人、いずれの間でもよい。

いくつかの辞典は同様の説明をしている。Webster（1986）では、samboは、zambo, Negro, mulatto（白人と黒人の混血）の意味を持つとされる。また、Kongoではzambu monkeyの意味をもつと書かれている。アメリカでは黒人（Negro）を表し、しばしば軽蔑して用いられる。Random House（1987: Stuart Berg Flexner and Leonore Crary Hauck Eds.）の辞典では、軽蔑し侮辱して①黒人、②国人とインディアン、あるいはムラート（mulatto）の系統を持つラテンアメリカ人を指してsamboと呼んでいる。1690年から1700年にはzamboといわれた。また、samboは、スペイン語でO脚または“がに股”の意に使われ、ギリシャ語ではScambos、ラテン語ではScambusであると記している。さらに、Oxford辞典（2002: Shorter Oxford English Dictionary）では、samboは、①黒人のニックネームであり、特にアメリカ人黒人奴隷の典型であると考えられ、彼らの卑屈な行動と態度を意味する、②混血家系をもつ肌の黒い人、とくに黒人とアメリカ・インディアンいずれかの親を持つ人、または親の一人が黒人であるか、人種的に混血であることを意味する。また、スペイン語でZamboといい、黄色ザル（yellow monkey）のことをさす（コンゴ＝Kongoではnzambumonkey）。「サンボ」は、いろいろな意味で用いられているが、いずれもアフリカ系「黒人」や「インディアン」の血筋を引く人々に対する侮蔑的な蔑称として用いられていることは明らかである。

**日本における「サンボ」問題**　19世紀の日本人にとって「黒人」は、今までにまったく出会ったことのない人々であった。その印象は目に焼き付けられるほどの強烈なものであった。「ある人

の日、異国人六七にて、両国辺より浅草観音様え参詣せんとて行ける内に、一人黒ン坊といふ異国人有之、是は背高く、よくふとり、顔の色からだも、皆々鍋墨を塗りし如くにて、目計きょろへとして、それに口をきくと、真白な長く大きな歯を出し、物言さま誠に恐ろしく、世にいふ黒鬼は彼様なりと思はれ候、其者とも四人…」(石井，1997b，p.100)。形相の形容をみると、現代の「黒人」ステレオタイプに反映している表現が含まれている。「鍋墨を塗りし如くにて、目計きょろへとして、それに口をきくと、真白な長く大きな歯を出し」の記述では、鍋墨に例えて「真っ黒」と表現し、「目計きょろへとして」と、目はまん丸であることを印象づけている。

私たちは、未知の対象に対して不安や恐怖といった情緒・心情を抱き、それらの情緒を反映させて対象を誇張して、象徴的に描き出すことがある。鬼の目は大きく、口は裂け、歯は鋭くとがり口から突き出ている。架空の鬼が獰猛で如何に恐ろしいものか、「空想的にデフォルメすることで」象徴的に表現するのは一例である。「ちびくろ　さんぼ」には、黒人に対する定型化された身体的特徴、黒人として蔑視され、否定的に誇張された描写が繰り返し行われてきた。さくま(1997)は、「ちびくろ　さんぼ」は、「黒人」に対する差別・偏見を含むものとして批判されてきたと、次のように指摘する。「サンボがアメリカへ渡った時代というのは、黒人解放（1863）が一時の夢のように再建時代をかけぬけたあと、黒人に対する政治的社会的弾圧が再び当然のように強まってきた時代であり、黒人に対するリンチなども史上最大の数が記録されていた頃だ。サンボという言葉はもともとアフリカ起源であり、地域によっては尊称としてさえ使われていたというデータもあるが、奴隷となって大西洋を渡ったあとでは、全く違うネガティブなイメージを持つようになっていき、特にアメリカ大衆芸能であるミンストレル・ショーのなかで、滑稽で智恵の足りない黒人というイメージを持つ名称として定着するに至って、サンボの北米での悲しい運命は決まってしまった」。原作者の意図はどうあれ、無知の象徴、笑いの対象としての衣を「ちびくろ　さんぼ」は歴史的にまとい続けてきたのである。とりわけ、絵本としての生命でもある挿絵に登場する「サンボ」の多くは、滑稽な「さんぼ」の資質を身につけた子どもとして描かれてきた。

以下に例証するように、相次いで「絶版となった日本語版の『ちびくろ　さんぼ』は、絵に関しては表現にかなりの差があるが、もっとも普及した岩波版を例にとると、黒人のステレオタイプ

図５　岩波書店版
（バンナーマン，1988）

図６　岩波書店版
（バンナーマン，1988）

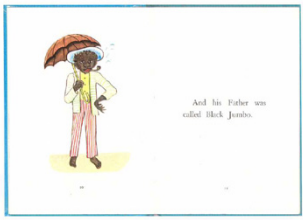


図７　原作原画
（Bannerman, 1996）

図８　原作原画
（Bannerman, 1996）

を描いたとされる非難はかわしようがないほど醜悪であった。つまり、黒色の肌、真っ赤な口、真っ白な目といった強調による公民権運動（1950～1960年代）以前の時代に生きた米黒人にとって強迫観念として存在した、『ブラックは罪深い』と隣り合わせとも言えるイメージの抽出、人間としての尊厳を失い、二級市民に甘んじた黒人像がそこにはあった」(さくま，1997)。挿絵の「さんぼ」は、「かわいらしく」「愛嬌があり」「親しみやすい」子どもであり、だれもが肯定的に受けとめている、との反論があるかもしれない。この点については、改めて次の２節で心理学の視点から実証的に検討してみよう。

図５、図６は、日本でもっとも普及した岩波書店発行（初版は1953年）の「ちびくろさんぼ」である。さんぼの顔、身体は真っ黒で目玉はまん丸い「ギョロメ」をし、眼球だけが真っ白である。口は「分厚く」描写されている。図６は、お母さんのまんぼであるが、さんぼ同様に目、口唇、肌の色は「黒人」を典型的に描き出すようにデフォルメされている。この本の後半には、「ちびくろうーふ、むーふ」の物語が掲載されている。いたずらザルが“うーふ”と“むーふ”を連れ去り、高い椰子の木の上に置き去りにしてしまう。なすすべもなく途方に暮れるお母さん。困り果てた母親を助けてくれるのが、天空を舞う大鷲である。大鷲が空から椰子のてっぺんに連れ去られた“うーふ”と“むーふ”を救いだし、母親の元に届けてくれるというストーリーである。

図７と図８はバンナマン原作の原図といわれる挿絵である（Bannerman, 1996）。岩波書店のさんぼとはまったく異なる容姿をしている。岩波書店の「さんぼ」に比べ、身体部位の描写の誇張

図９　新装「サンボ」（バンナマン，1994）

図10　新装「サンボ」（バンナマン，1994）

図11　新装「サム」（バンナーマン，1997）

図12　新装「ババジ」（バンナーマン，1998）

は小さい。図７は主人公の「ちびくろさんぼ」である。図８は父親の「じゃんぼ」である。さんぼ同様「黒人」を強調するデフォルメは岩波版ほど極端ではない。この「原画」に登場するさんぼは、いろいろな顔つきをしており、一通りにすべて「グロテスク」に描写されているわけではない。整った容姿のさんぼも含まれているのである。

図９、図10は子ども文庫の会が編集・出版した「ブラック・サンボくん」である（バンナマン，1994）。「あるところに、くろんぼのおとこのこがいました。ブラック・サンボくんという名前でした」。物語の出だしである。ストーリーは、機転の利いたさんぼのかしこさが前面に出され、機知に富んだ痛快な作品として紹介されている。「ブラック・サンボくんは、インドの子どもです。サンボくんがこんな小さなかたちの絵本の中で、はじめて子どもたちのまえに姿をあらわしたのは、一八九八年、いまから一〇〇年ちかくもまえのことです。それいらい、サンボくんは、いろんなくにの子どもたちとうんとなかよしになりました。サンボくんの絵本が、はじめでたのはイギリスでしたが、すてきなかっこうをしてジャングルにさんぽにいったり、次から次にでてくるトラと、どうどうととりひきをして、トラにたべられないどころか、トラのとけたバター・ソースであげたホット・ケーキを一六九まいもたべた。つうかいなはなしなので、よそのくにの子どもたちも、サンボくんがだいすきになったのです。…ジャングルのトラたちが、『ブラック・サンボ、おまえをくってやる！』といったとき、サンボくんがどうしたか。小さい子どもでも、サンボくんのかしこいこと。だからみんなサンボにかんしんしてしまうのですね」。さんぼも、お母さんも（図９・10）、お父さんも「黒人」の特徴として身体・容姿の描写がことさら誇張されて描写されているわけではない。さんぼは、智恵のある機知に富んだ少年として描かれている。

図11も「ちびくろさんぼ」の絵本を、童話としてのおもしろさと優れたストーリーを生かし、偏見や差別的な表現を廃し、新たな作品として蘇生させたものである（バンナーマン，1997）。著

者はいずれも「アメリカ黒人」(レスターとピンクニー) であるという。著者のあとがきが興味深い。ちびくろさんぼをめぐっては、挿絵とストーリーに「黒人」に対する差別と偏見が含まれることが指摘されてきた（バンナーマン，1997)。

「意図的かどうかは別として、『リトルブラック・サンボ』は、アフリカ人の顔つきを誇張した絵と、17世紀初頭から黒人に対する蔑称として使われてきたサンボという名前によって白人の方が優秀だという考えを強化することになりました。しかし、この物語には固定観念を超える何かがあり、100年近くの間子どもたちはこの本を楽しんできたのです」(レスターとピンクニー，1997)。著者は、「智恵を持って虎たちを負かした黒人の子どもの物語を、自分なりに解釈する自由を得た」ことに喜びを感じ感謝している。そして、この本の優れている点を次のように語っている。「想像力という真実だと私は思いました。そして、そこでは動物が人間と一緒に暮らし、子どもたちはトラバターで焼いたホットケーキを食べ、『親たちはそんなに食べたらいけないよ』なんて、決して言いはしないのです」(レスターとピンクニー，1997)。さんぼはトラの危害をうまく切り抜ける利発な子どもであり、お父さんもお母さんもおおらかで朗らかな心の持ち主である。

図12は、「トラのバターのパンケーキ」と題した「ちびくろさんぼ」の新装版（バンナーマン，1998）である。ババジくん、ママジお母さん、ババジお父さんとトラの愉快な物語として描かれている。あとがきでは、「この本では、登場人物に、伝統的なインドの名前をつけました」と書かれている。これらの改訂版の「ちびくろ　さんぼ」は、いずれも「黒人」をさげすむシンボルとして用いられてきた目や唇のデフォルメや肌の色の強調は一切取り払われている。

**キャラクターの容貌と印象**　「ちびくろさんぼ」の挿絵が、実に多様であり、多彩な顔・風貌のさんぼやまんぼやじゃんぼが生み出されてきたことは、機会を改めて分析し考察したい。さんぼ

**表２　相貌尺度と性格尺度の間の関連**

| 性格特性<br>相貌特徴 | 消極的な | 心の広い | 無分別な | 責任感のある | 感じの悪い | 親しみやすい | 短気な | 親切な | 知的でない | 内向的な |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 顔の大きい | .14(−) | −.10(+) | .03(..) | −.04(..) | .11(..) | −.13(+) | −.10(−) | −.02(+) | .10(+) | .13(+) |
| 面長の | .18(+) | .10(−) | −.18(..) | .10(..) | −.18(+) | 10(−) | −.23(+) | 21(−) | −.08(+) | .21(+) |
| 額の広い | .10(−) | .05(+) | −.17(−) | .08(+) | −.13(−) | .09(+) | −.24(−) | .17(+) | −.14(−) | 19(−) |
| 頬のこけた | −.15(+) | .13(−) | −.09(..) | .09(..) | −.03(+) | 01(−) | .04(+) | −.03(−) | −.04(..) | −.11(+) |
| 顔のきめの細かい | −.07(+) | .02(..) | .00(−) | .00(..) | −.06(−) | .02(+) | 00(−) | .06(+) | −.08(−) | −.09(+) |
| **色の黒い** | .26(−) | −.12(+) | −.01(..) | −.10(+) | .10(..) | −.10(+) | −.08(+) | −.00(..) | **.13(+)** | **.29(+)** |
| 血色のよい | −.24(−) | .17(+) | −.18(−) | .16(+) | −.17(−) | .16(+) | −.02(−) | .10(+) | −.15(..) | −.18(−) |
| 髪の毛のやわらかい | −.05(+) | .05(..) | −.11(..) | .05(..) | −.08(−) | .08(+) | −.06(−) | .07(+) | −.06(−) | −.08(..) |
| **目のまるい** | .33(−) | .01(+) | −.03(..) | −.01(..) | **−.18(−)** | **.12(+)** | −.32(..) | **.23(+)** | .01(..) | 33(−) |
| あがり目の | −.49(−) | .08(+) | −.07(..) | .11(..) | .04(+) | −.00(−) | .31(+) | −.13(−) | −.22(−) | −.48(..) |
| **目の大きい** | .18(−) | .07(+) | −.08(..) | .01(..) | **−.18(−)** | **.13(+)** | −.26(..) | .23(..) | −.09(−) | 16(−) |
| まつげの長い | .19(...) | −.08(+) | .04(−) | −.09(..) | −.02(−) | .00(+) | −.10(..) | .08(+) | −.02(−) | .15(..) |
| 眉の細い | .03(+) | .08(−) | −.07(+) | .03(−) | −.09(+) | 08(−) | −.07(..) | 04(−) | −.01(..) | .02(+) |
| 眉の八の字型の | .19(+) | −.00(..) | −.10(..) | .06(−) | −.12(−) | .05(+) | −.19(+) | .17(+) | −.00(+) | .26(..) |
| 鼻の高い | .04(−) | .08(−) | −.16(−) | .05(..) | −.16(..) | 12(−) | −.17(−) | 17(−) | −.15(−) | 13(−) |
| 鼻の穴の小さい | .27(+) | .04(−) | −.10(..) | .06(..) | −.16(−) | .14(..) | −.29(..) | .21(..) | −.03(−) | .29(+) |
| かぎ鼻の | −.03(..) | −.06(..) | .10(+) | −.08(−) | .10(+) | −.08(−) | .11(..) | −.13(−) | .14(+) | −.02(..) |
| 口の小さい | .37(+) | −.19(−) | .04(−) | −.09(..) | .09(−) | −.01(−) | −.15(..) | .07(..) | 17(−) | .38(+) |
| **唇の厚い** | .30(−) | −.11(+) | .04(..) | −.09(+) | .03(..) | −.07(+) | **−.27(−)** | .08(+) | .08(+) | 35(−) |
| **口もとのゆるんだ** | **.24(+)** | −.15(..) | **.13(+)** | **−.17(−)** | **.20(+)** | −.17(..) | −.03(−) | −.12(..) | **31(+)** | .19(..) |
| 歯ならびのよい | −.15(−) | .21(+) | −.12(−) | .19(+) | −.23(−) | .19(+) | −.06(..) | .14(+) | −.25(−) | −.18(−) |
| 耳の大きい | −.04(−) | .16(+) | −.21(−) | .10(+) | −.17(..) | .11(+) | −.13(−) | .14(+) | −.17(..) | −.02(−) |
| やせた | −.28(+) | −.02(−) | .03(..) | −.06(..) | .10(+) | −.13(−) | .28(+) | −.19(−) | −.02(−) | −.33(+) |
| 背の低い | .02(+) | −.14(..) | .18(..) | −.14(..) | .16(..) | −.10(+) | .18(..) | −.13(+) | .10(+) | −.00(+) |
| 骨太の | .12(−) | −.04(+) | −.07(..) | −.03(+) | .07(..) | −.06(+) | −.08(..) | .01(+) | −.01(+) | 10(−) |

注（　）内の＋，−，. . は、それぞれ別な実験で有意な正の相関、有意な負の相関、無相関だったことを

（林ら（1985）より）

の顔の特定部位、例えば、唇や目が誇張して表現され、それが差別や偏見に結びつくとして批判

されてきたことは、どのような「ちびくろさんぼ」を描き出すかによって、私たちが抱く「さんぼ」のイメージ・印象が大きく異なることを示唆するものである。では、私たちが特定の対象に対して持つイメージや印象は、その人の「顔のつくり」や目・鼻・唇等々の顔の部位の形状によってどのような影響を受けるのであろうか。林ら（1985）は、容貌の異なる女性の写真を４枚実験参加者に呈示し、各女性の容貌（「顔の大きい」「目の大きい」「色の黒い」など。研究では相貌と呼んでいる。）に対する印象と性格を評定させた。女性の容貌に対する印象評定と性格評定との関係の強さを表したのが表２である。「ちびくろさんぼ」の挿絵と関わりがあると思われる相貌の特徴を５つ拾い出してみよう。「色の黒い」「目のまるい」「目の大きい」「唇の厚い」「口もとのゆるんだ」の５項目である。この５項目の相貌のうち、林等が行った以前の実験と表２の相関係数の正負が一致し、有意であった性格特性を抽出しよう。「色が黒い」ことは「知的ではなく」「内向的な」性格だと見られやすい。「目がまるい」と「感じがよく」「親しみやすく」「親切な」人柄だと判断されやすい。「目が大きい」ひとは、「感じがよく」「親しみやすい」と受けとめられやすい。「唇が厚い」場合には、「短気ではない」と見られ、「口もとがゆるんでいる」と「消極的」「無分別」「責任感がなく」「感じが悪く」「知的ではない」と見なされる傾向が強い。批判されてきた絵本の挿絵の「ちびくろさんぼ」は目が丸くて大きい点では感じがよく親しみやすい対象であるが、唇が厚く、丸いドーナッツのように開いた口は、非文化的、非知性的で野蛮な印象を与え、全体としては決して肯定的なイメージで受けとめられていないことが示唆されているのである。

## ２　社会問題化した現代の「自覚なき人種的偏見」

アメリカの大衆向けのエンターテイナーとして「サンボ」が作りだされた。「サンボ」を通して黒人「道化師」のイメージが世界中に広がり、定着していった。「サンボ」は、真っ黒な肌に、まん丸の大きな目、そして分厚い唇といった、独特の容姿をしていた。顔の一部の形状を強調したデフォルメは、キャラクターに対する私たちのイメージを大きく左右する。「黒人」を象徴的にイメージさせる「サンボ」の身体的特徴は、「人種」デフォルメの典型である。本節では、1980年代に「人種」デフォルメが、人種差別・偏見を助長すると海外から批判を受けたマネキン人形に端を発し、その後一大騒動に発展した「ちびくろさんぼ」問題について、絵本「ちびくろさんぼ」の分析を通して人種ステレオタイプの存在を例証する。

**「ちびくろさんぼ」とデフォルメ**　日本において人種問題は新しいものではない。このことは、坂西（2017a, 2017b）ですでに考察した内容から明らかである。にもかかわらず、つい最近（20世紀末）まで日本では、日常的に東洋人・西洋人に身近に接し会話する機会は極めて少なかった。そのためか、私たちの多くは人種問題に関しては疎く、何が人種差別・偏見につながる問題であ

図13　なぜ「ちびくろサンボ」か
（朝日新聞，2003a）

図14　「あれはインドのギーなんです」
（朝日新聞，2003b）

るかを充分に認識できない。「ちびくろさんぼ」は、降って湧いたようににわかに「人種差別･偏見」の問題として日本中を席巻した。「ちびくろさんぼ」問題こそ、日本人が人種差別・偏見を身近な問題として捉えてこなかったことを示す典型的な事例である。ことの発端は、直接「ちびくろさんぼ」の絵本にあったわけではないが、またたく間に「さんぼ」に関わる本は店頭、図書館から姿を消し、版元は本の絶版を決めた。出版の中止、渦中の書籍の廃棄、排除によって、人種差別・偏見は、人々に深く理解され、問題は大きく改善されたのだろうか。残念ながら事態はそう単純に推移してはいない。本稿では、絵本「ちびくろさんぼ」に焦点をあて、そこに含まれる人種差別や偏見・ステレオタイプを分析する。人種差別・偏見・ステレオタイプの存在を私たちがどのように認識しているのかを、質的分析と量的分析の両面から検討し、吟味する。さらに、容易ではないが、それらを減少させ軽減させる手がかりはどのようにしたら得られるのか、文化と関わらせて考察することにする。

一気に日本中を巻き込んだ「ちびくろさんぼ」問題の経緯は、以下のようであった（福島，1990）。1988年６月、キャラクター商品の発売元、サンリオの『サンボ＆ハンナ』の人形と、東京そごうに陳列されていた、その特徴を極端にデフォルメしたマネキン人形が、ワシントン・ポスト極東共同総局長マーガレット・シャピロさんの目にとまった。『黒人の古いステレオタイプ日本で息を吹き返す。市場関係者は差別の意図なし、と強調』の見出しでセンセーショナルに報道された（1988年７月22日）。その後、日本に記事が伝えられた７月23日、自民党渡辺美智雄政調会長（前）の「アメリカ人の家計の破産を黒人と結びつける発言」が、さらに事態を混乱させ、日本大使館に抗議が殺到した。８月１日には、アメリカ黒人議員連盟が、竹下首相（前）に「日本製品のボイコットも辞さず」との抗議書簡を送り、国際問題化した。

図15 「さんぼ」の復活を（朝日新聞，2003c）

図16 米で復刊「さんぼ再考」（朝日新聞，2003d）

図17 17年ぶりに復刊（朝日新聞，2005a）

一連のできごとは、問題とは無関係だった絵本「ちびくろさんぼ」に波及し、「ちびくろさんぼ」は批判の矢面に立たされることになった。こうして、「ちびくろさんぼ」は店先や版元から姿を消し、図書館からも撤去される動きが広まった（図13，図14）。「ちびくろさんぼ」の一斉の「廃棄」は、賛否両論を巻き起こした。絵本の絶版や図書館･公共施設からの排除は、さまざまに議論されたが、結論が一点に集結する問題ではなかった。

後に考察するが、いったんは絶版にされた「ちびくろさんぼ」であるが、その後旧版のまま、または改作されて再出版され現在に至っている（図15，図16）。日本でもっとも普及し、多くの人に親しまれたといわれる岩波書店の「ちびくろさんぼ」前編と「ちびくろさんぼ」後編（ちびくさんぼとふたご）は、そのまま装丁も旧版と全く同じに瑞雲舎から2005年に新たに発刊されている（図17，図18）。また、ヘレン･バンナーマン原作の「ちびくろさんぼ」は、原作者の挿絵を用いて「ちびくろさんぼのおはなし」として、径書房から一足早く1999年に再版されている。一方、森(1997)

図18 「懐かしい絵本」（朝日新聞，2005b）　図19　原作を正確に（朝日新聞，1996年）　図20　オリジナル版再現（朝日新聞，1999年）

は、ストーリーと挿絵の基本的な構成は変えずに、「さんぼ」「まんぼ」「じゃんぼ」の三者を真っ黒な「いぬ」の親子に代えて、「チビクロさんぽ」を出版している。

日本で「ちびくろさんぼ」が絶版に至った経過と復刊された事情は、大筋このようなものであった。「ちびくろさんぼ」が問題にされたのは、最近のことのように思われるかもしれないが、海外ではずっと以前から批判されてきたのである。表３は「ちびくろさんぼ」問題の経緯を示す年表

図21　赤い鳥に収録された「虎」（村山，1929）：「ちびくろさんぼ」

である。バンナーマンの原作が絵本として出版されたのが1899年である。日本では、1929年に「赤い鳥」（13号二月）に村山吉雄が童話「虎」（図21）と題して「ちびくろさんぼ」を紹介している。その後、20年ほどで全米有色人種振興協会支部が「サンボ」を追放している。これを皮切りに「ちびくろさんぼ」は、黒人差別と偏見を助長するとして厳しい批判に曝されてきたのである。

本稿で分析対象にした資料からわかるように、「ちびくろさんぼ」の物語は、絵本だけでなく、紙芝居や人形劇にもなっていたのである。これらの作品は、各地の図書館に所蔵されていたが、一連の騒動をきっかけに一斉に貸し出し禁止になり、市民の目の前から姿を消したのである。差別や偏見を敬遠し、これらの作品を避けて遠ざけるのではなく、私たちが疑問に思わなかったことをより深く考え、理解する材料にすることができるのである（朝日新聞，1996，1999）。差別や偏見を歴史的背景から掘り起こし、その残虐性と不当性、非人間性を絵本や児童書を通じてわかりやすく伝える作品も出版されている（レスター，1999、レスター，2006）。貸し出しが禁止されていた「ちびくろさんぼ」の作品が、今日再び図書館から借りられるようになったことは、積極的な意味がある。今でも世界各地にあふれる不条理・理不尽な人間関係、一方の集団が他方の集団を支配し服従させる無法な関係に結びつけて、差別と偏見を考える契機を「ちびくろさんぼ」は与えてくれるからである。

**「ちびくろさんぼ」描写の変化**　「ちびくろさんぼ」は、いろいろな挿絵で出版され続けてきた。日本で出版された「ちびくろさんぼ」は、挿絵のほとんどで「黒人」の特徴として目や唇や肌の色を誇張し、デフォルメした描写が行われてきた。こうした描写は、人種差別・偏見を助長し、

表３　「ちびくろさんぼ」問題の経過

| 年 | 「ちびくろさんぼ」に関する問題の内容 |
|---|---|
| 1899 | バンナーマン夫人(1863-1946)「リトル・ブラック・サンボ」ロンドン　グラントリチャーズ社 |
| 1901 | 「リトル・ブラック・ミンゴ」刊。 |
| 1902 | 「リトル・ブラック・クィバ」刊。 |
| 1905 | 「リトル・ケトル＝ヘッド」刊、「パット・アンドザ・スパイダー」刊。 |
| 1907 | 「ザ・ティージング・モンキー」刊。 |
| | 「東西お伽噺（英語の教本）に「サンボのお手柄」。 |
| 1908 | 「リトル・ブラック・クァシャ」刊。 |
| 1909 | 「リトル・ブラック・ボブティル」刊。 |
| 1929 | 赤い鳥(13号二月）に鈴木三重吉翻案「虎」。 |
| 1937 | 「さんぼとふたご」刊行。 |
| 1952 | 全米有色人種振興協会支部(NY/ロシェスター）「サンボ」追放。 |
| 1953 | 岩波の子どもの本「ちびくろ・さんぼ」（ドビアスえ　マクミラン社版）。 |
| 1958 | トロント教委学校図書館から「サンボ」追放指示。 |
| | NYタイムズにカナダの図書館員抗議。黒人住民の「サンボ告発」。教委が根拠なしと裁定。 |
| 1965 | 「リトル・ホワイト・スクウィバ」刊。 |
| | 人間関係評議会の告発により、ネブラスカ州リンカーン公立学校「サンボ」回収(AP通信)。 |
| | 「ちびくろさんぼ」の教訓　石井桃子（子どもの図書館）。 |
| | 岩波「ちびくろさんぼ」真贋論争。鳥越信VD飯沢匡（３歳から６歳までの絵本と童話　誠文堂 |
| | 古典絵本の教えるものーちびくろさんぼー瀬田貞二（こどものとも月報）（絵本論　福音書館, |
| 1971 | アラバマ州、モントゴメリーの学校「サンボ」禁止に図書館員反論。 |
| | 「ちびくろさんぼ」小論　小西正保（日本児童文学　臨増・絵本）。 |
| | イギリス人種差別反対教員中央委員会「サンボ」出版継続に反対。 |
| | ザ・タイムズにブライアン・オルダーソン反論　論争起こる。 |
| | 「ライブラリー・ジャーナル」に全カナダ黒人連合会「サンボ」回収要求、モントリオールで |
| | 全国黒人連合会　代表を図書館大会宗教者会議に送り「サンボ」他人種別図書廃棄を要求。 |
| | 「ちびくろ・さんぼ」をめぐって。渡辺茂男（子どもの館4～6）〝常識の世界から〟。 |
| 1974 | 「月刊絵本」（すばる書房）NO.19特集 NO.19特集　とびくろさんぼ―ちびくろさんぼをどうみ |
| | るか―コピーとオリジナル８新村徹），遠い国のおとぎばなしではない（島　式子），バン |
| | ナーマンおばさんの本（上野　瞭），駄作・凡作・傑作（奥田継男），ちびくろさんぼで考え |
| | ること（詫間英夫），おやすみなさいちびくろさんぼ（灰谷健次郎、ちびくろさんぼに思うこ |
| | と（三宅興子），ひとりの少年を傷つけるとしたら（田島征三，アン・ヘリングさんにきく， |
| 1977 | 岩波の子どもの本―発刊のころのことども―光吉夏弥（日本児童文学別冊）。 |
| | 「ちびくろさんぼ」論―実験を中心に―大久保みどり（児童文学評論　No.12）。 |
| 1988 | サンリオ「サンボ・アンド・ハンナ」の人形とそごう東京店の黒人マネキンが人種差別的とワ |
| | シントンポストで非難、大使館に抗議殺到。 |
| | 日本の黒人人形に反発―ブラック・パワー逆撫で―（読売 7.27）。 |
| | 「チビクロサンボ」騒動顛末記　東郷茂彦（中央公論　10月）。 |
| | 「ちびくろサンボ」相次ぐ絶版（朝日12.14.)。 |
| | 朝日新聞声欄(1989.1.21）読者の論評。 |
| | 児童図書館研究会「ちびくろさんぼ問題」学習会(2.6)。 |

注：福島，1990「ちびくろ・さんぼ問題－その発端と経緯」　子どもの本の明日を考える会編　『ちびくろ・さんぼ』はどこへいったの？』　注）子どもの本の明日を考える会発行/　日本図書館協会図書館の自由に関する調査委員会関東地区小委員会編，1990　「ちびくろサンボ」問題を考えるシンポジューム記録　日本図書館協会　より作成.

人種ステレオタイプを強化するものとして強く非難されてきた。ここでは、各種の「さんぼ」のデフォルメ」を改めて確認することにする。とりあげる絵本「ちびくろさんぼ」は順不同である。発行年については表３に一覧にしてまとめた。

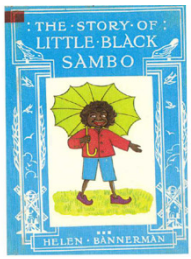


図22　表紙
(Bannerman, 1899)

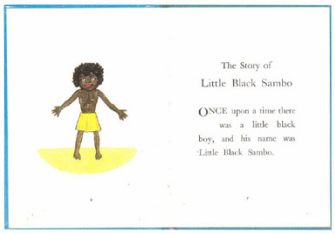


図23　サンボ
(Bannerman, 1899)

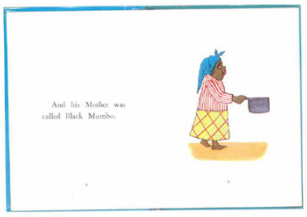


図24　マンボ
(Bannerman, 1899)

図22は、バンナーマンの原画を用いたイギリスで出版された絵本である。彼女の挿絵に登場する「さんぼ」の容姿は、一冊の絵本とはいえ描写のされ方は多様である。「かわいらしい」表情のものもあれば、強面の「こわい」ものもある。「さんぼ」の顔や身体の描かれ方がまちまちであるのは、バンナーマンが自分の子ども用に作ったストーリーと絵だからこそであり、規格品としての商品を前提にしていたのではなかったからであろう。

このことは、各国の作者・挿絵画家によって「焼き直された」「ちびくろさんぼ」に慣れ親しん

図25　マンボ
（Bannerman, 1899）

図26　ジャンボ
（Bannerman, 1899）

図27　家族で食事
（Bannerman, 1899）

でいる多くの読者が見落としている点かもしれない。図22と図23の「さんぼ」を見比べて読者はどのように感じるであろうか。おそらく多くの人は、前者は「こわい」「ぶきみ」など否定的な印象を強く持つのではないだろうか。それに対して、後者は、つぶらな瞳で整った顔立ちをし、読み手に好印象を与える傾向が強いのではないだろうか。

変化に富んだ描写の仕方は、「さんぼ」に限らない、お母さんの「まんぼ」にもあてはまる。図24は、ふっくらとした顔とたっぷりとした体格の「まんぼ」が描かれているが、スマートとはいえないし、唇を突き出した表情は「洗練された」女性という印象を与えることは少ないのではないだろうか。図25も同様な描かれ方をしているが、「まんぼ」の表情は図24とは多少異なっている。同時に「さんぼ」の顔（図25）も前の２枚（図22，図23）とはかなり様相が違っている。さらに図26の「じゃんぼ」を見てみよう。スマートで紳士的ないきな「じゃんぼ」が描かれている。他にトラのバターの入った壺を運ぶ「じゃんぼ」と、みんなでパンケーキを食べている「じゃんぼ」(図27）も描かれているが、図26のように「ダンディー」には描かれていない。食事を楽しむ一家団欒のひとときが描かれているが、「さんぼ」「まんぼ」「じゃんぼ」の表情は、いずれも「上品」に描かれているとは言い難い。バンナーマンの手作り絵本の特徴が、こうした描写の多様性に表れていると考えられる。なによりもバンナーマンは、「黒人」の特徴をデフォルメした定型的な描き方、ステレオタイプの描写をしていないことに注目したい。描かれた顔の「美醜」の程度は異なるにせよ、人種差別・偏見を反映し、誇張したデフォルメ（「人種」デフォルメと呼ぶ)、戯画化はなされておらず、むしろ「写実的」な描写が行われている点が興味深い。

もともと「ちびくろさんぼ」は、母親であるヘレン・バンナーマンが、親元を離れて寄宿学校に入ることになった二人の娘に、さびしい思いをしないようにと、絵手紙にしたものだという（中山，1978：図28)。バンナーマンの元の挿絵には、「黒人」特有の身体的特徴が誇張され描写されているわけではない。対照的に、日本で出版された「ちびくろさんぼ」は、多かれ少なかれ、人種的特徴を誇張したデフォルメが施され、人種ステレオタイプを読者に強く意識させる。何をデフォルメと見なすかは、明確な基準があるわけではなく読み手の主観的な判断に依存することになる

図28「サンボ」
（中山，1978）

図29　赤い鳥
（鈴木，1929）

図30「虎」
（鈴木，1929）

図31　「虎」
（鈴木，1929）

が、ここでは「さんぼ」(「まんぼ」、「じゃんぼ」も同様）の以下の身体部位を誇張したり、特徴づけて描いているか否かによって人種デフォルメの有無を判断する。①目―まん丸い目、白目の中に黒目が点として象徴的に描かれている、②肌―真っ黒な肌の色をし、髪の毛と皮膚の区別がない、③眉―眉が省略され描かれていない、④唇―唇が一本の線で描写されず、縁どりをするなどし、唇の厚みを強調して描き出している。この基準に従って、収集することのできた「ちびくろさんぼ」について、「人種」」デフォルメの有無を検証する。

図29、図30、図31は、中村吉雄が翻訳し「赤い鳥」（鈴木，1929）に掲載された童話「虎」である。図29のお母さんに「おんぶ」された赤ちゃんは、小さいが眉が描かれている。図30では、「さんぼ」の目はまん丸く、眉は省略されている（図31では左眉が描かれている）。唇は、厚みを表現している。肌は黒く塗りつぶされているわけではなく、目と眉にデフォルメは認められるものの戯画化された極端なデフォルメではない。「虎」は、日本に紹介された「ちびくろさんぼ」の最初期のものである。物語の表現は、時代を反映して文語調であり、ストーリーそのものも「トラのバター」は織り込まれていない。物語の書き出しと終わりを紹介しておこう。「小さな、黒ん坊の子のザンボーが、母さまにきれいな赤い上着と、青いヅボンをこしらへてもらひました。それから父さまに、水

図32　さんぼ
（バンナーマン，2005）

図33　虎
（バンナーマン，2005）

図34　マンボ
（バンナーマン，2005）

色の洋傘と赤い巾でふちどりをした、かはいらしいしろい靴を買ってもらひました」。「さんぼ」は、「ザンボー」として登場している。「ザンボーが、翌日る日、又、その上着とヅボンをはいて、あの靴と洋傘をさして出かけて見ますと、四人の虎は昨日のところに、四人ともみんな引きちぎった臀尾をくはへたまゝ、仰向きに倒れて死んでゐました。はッはッは。（をはり）」。物語は、トラ同士が相打ちで死に果てて終結している。

図32、図33、図34は岩波書店刊の「ちびくろさんぼ」を瑞雲社が復刊（へれん・ばんなーまん／ふらんく・どびあす，2005）したものである。「黒人」の「人種的」特徴が極端に誇張して描写されている。まん丸い目、白目に黒い瞳、眉の省略、髪と皮膚（額など）の区別がなく、真っ黒な肌をしている。この挿絵は、典型的に「黒人」をデフォルメして描いている。典型的にデフォルメされた「さんぼ」は、親しみをもって多くの読者に受け入れられてきた。「黒人」を特徴づけるデフォルメ自体が日本人に好意的に受けとめられてきたことを、岩波書店発行の「ちびくろさんぼ」の普及は示している。すでに述べたことであり、機会を改めて詳細に吟味するが、特定の集団や人々に対して「ユーモア」や「親しみ」を感じ、肯定的な感情をもっているからといって、私たちが彼らに対する差別や偏見から解放されているとは必ずしもいえないのである。

図35，図36は、ポプラ社刊行の「ちびくろ・さんぼ」である。表紙には、まん丸い目で、大き

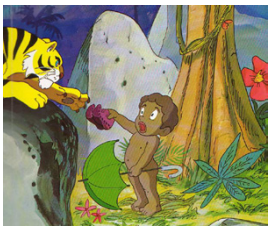

図35「ちびくろ・さんぼ」
（バンナーマン，1982）

図36 「ちびくろ・さんぼ」
（バンナーマン，1982）

図37 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1983）

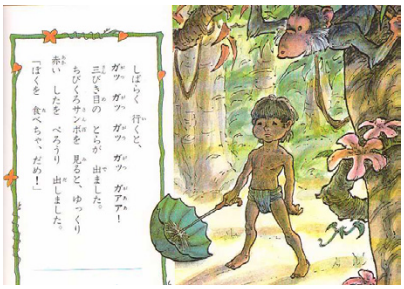


図38「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1983）

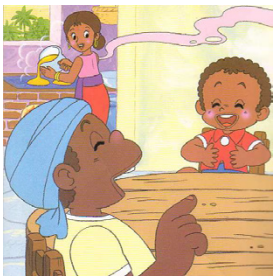

図39「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン，1987）

図40「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン，1987）

い白目と小さく黒い瞳をした「さんぼ」が掲載されている。唇は一本の線で描かれ、厚みは表現されていない。肌は浅黒く、真っ黒に描かれてはいない。総じて写実的に描かれ、極端な「人種」デフォルメはなされていない。本文中の挿絵の「さんぼ」の描写は、表紙と基調は同じである。しかし、表紙の「さんぼ」と違い、場面によっては「さんぼ」の唇は厚みを持たせて、赤く際だたせて描写されており、「人種」デフォルメが認められる。原画ではさんぼは、パンツをはいているが、ここでは「素っ裸」で描かれている。図37，図38は、小学館から出版された「ちびくろさんぼ」である。この挿絵では、目や唇の誇張された描写は認められない。さんぼも背景も写実的に描かれている。多くの絵本は、ズボンをとられた後のさんぼは、パンツをはいている。小学館のこの絵本では、さんぼは「褌」をつけた姿で描かれている。

図39，40は、永岡書店刊行の「ちびくろサンボ」だ。「さんぼ」の唇のみがふちどりされ、厚みを表現している。ふちどった唇の描写により「黒人」であることを表示している。バンナーマンの絵では、さんぼは長ズボンをはいているが、この絵本では短パンである。ここでもさんぼは下着を着けていない。髪は縮毛であるが、誇張されてはいない。

図41「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1978a）

図42「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1978a）

図41，図42は、永岡書店刊行の「ちびくろサンボ」である。「さんぼ」の唇がふちどられ、厚み

を持たせた表現をしている。肉厚の「おちょぼ口」、ふちどった唇の描写によって「黒人」であることを強調して表示している。この挿絵を見ると唇のデフォルメは顕著である。挿絵の「さんぼ」は、眉を描けるだけの広い額をしている。しかし、「人種」デフォルメを判断する一つの基準としてあげた「眉」は省略されている。この絵本でも、さんぼは短パンをはき、下着を着けていない。

図43 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1971）

図44 「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン，1971）

図45 「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン，1971）

図43，図44，図45は、小学館が出版した「ちびくろサンボ」である。「世界の童話シリーズ」の中の第９巻であり、この巻の表紙のタイトルは「ピノキオ」である。第９巻には三話が収録されていて、そのうちの一話が「ちびくろサンボ」である。目次に登場する「さんぼ」（図44）は、眉が

図46 「サンボ」
（バンナーマン，1968a）

図47 「サンボ」
（バンナーマン，1968a）

図48「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1978b）

なく、まん丸いむき出しの目をし，縮れた頭髪、突き出た分厚い唇をしている。「人種」デフォルメを見て取ることができる。それに対して、物語の本文に添えられた挿絵（図45）では、写実的な愛らしい「さんぼ」が登場し、眉も描かれている。しかし、唇には厚みを感じとれるふちどりがなされ、この点で「人種」デフォルメを認めることができる。

図46，図47は、日本標準から出された「チビクロ・サンボ」である。「さんぼ」はあどけない幼い子どもとして描かれているが、唇はふちどりされて、厚さが強調されている。母親・父親の「まんぼ」・「じゃんぼ」も同じく厚い唇をしている。黒人を連想させる「人種」デフォルメが施されていると見ることができる。

図48，図49は、講談社から出版された「ちびくろサンボ」である。この挿絵では、目や唇の誇張された描写は認められない。さんぼ、母親、父親、背景がみな写実的に描かれ、「人種」デフォルメは施されていない。

図50，図51は、ひかりのくにから出版された「幼児に聞かせたいお話12か月」である。バンナーマンの「ちびくろ」シリーズの一つで、「ちびくろさんぼとふたご」である。「さんぼ」のふたごの

図49 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1978b）

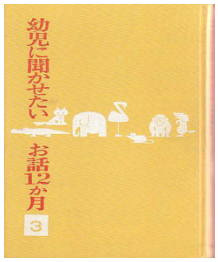


図50 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1968b）

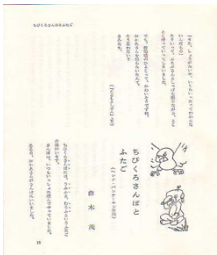

図51 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン，1968b）

図52 さんぼ
（バンナーマン，1977）



図53 さんぼ
（バンナーマン，1977）

図54 さんぼ
（バンナーマン，1970a）

図55 さんぼ
（バンナーマン，1970a）

弟「うふふ」と「むうふ」が、いたずらざるにさらわれ、高い木のてっぺんにおきざりにしてしまう。困って泣いている「さんぼ」を見て、鷲が「うふふ」と「むうふ」を救い出してやる物語である。挿絵は泣いているサンボであろうか、あるいは双子のいずれか一方であろうか。子どもの頭には２～３本の髪があるだけだ。まん丸い目は白目に囲まれた黒い点として描写されている。唇にはふちどりりをし、厚味があることを象徴的に表している。簡単な絵ではあるが、「人種」デフォルメされた挿絵といえるだろう。

図52，図53は金の星社刊の「ちびくろ・さんぼ」である。「さんぼ」は、小さい子どもらしくかわいらしく描かれている。しかし、唇だけは目立つように白く「中抜き」され、厚味があることが一目でわかる。お母さんの「まんぼ」、お父さんの「じゃんぼ」も同じように唇が白く描かれている。「黒人」の特徴を示すようにデフォルメされている。

図56 ちびくろ・さんぼ
（バンナーマン，1974a）



図57 ちびくろ・さんぼ
（バンナーマン，1974a）

図58 ちびくろ・さんぼ
（バンナーマン，1974a）

図54，図55は、ポプラ社刊行の「ちびくろ・さんぼ」である。「さんぼ」は、全身真っ黒で影絵のように描かれている。まん丸い「ぎょろめ」が象徴的に光っている。「まんぼ」も「じゃんぼ」も同じように白と黒のコントラストを基調にデフォルメされて描写されている。

図56，図57，図58は、金の星社が出版した「ちびくろ・さんぼ」である。図54，図55と同様に

この絵本の挿絵もモノクロで表現されており、黒と白の対比によって「さんぼ」(「まんぼ」「じゃんぼ」にもあてはまる）の肌の黒さを象徴的に表している。髪は縮れ、眉・目・鼻は省かれて、描かれていない。眉や目は描かれず、黒く塗りつぶされている。父のじゃんぼも母のまんぼもさんぼ同様に黒一色で「黒」を誇張して描写されている。トラの顔は、目、鼻、口、ヒゲがはっきりと描かれているのと対照的である。唇だけが白く縁どりされ、「人種的」特徴が目立つようデフォルメされている。

図59 「ちびくろさんぼ」
（バナーマン, 1974b）



図60 「ちびくろさんぼ」
（バナーマン, 1974b）

図61 「ちびくろさんぼ」
（バナーマン, 1967）

図62 「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン, 1967）

図59，図60は、講談社から出された「ちびくろさんぼ」である。さんぼとその家族は、目は丸く「クリクリ」眼であり、眉は省略されている。が、肌を真っ黒に塗りつぶしたり、厚い唇にしたりする描写はなく、「人種」デフォルメは認められない。図61，図62は童心社発行の「ちびくろさんぼ」である。このさんぼも肌の色は「真っ黒」ではないが、眉は省略され、唇は厚く表現され、「人種」デフォルメを認めることができよう。

図63，図64は教育画劇が出版した「ちびくろさんぼ」である。挿絵を見てわかるように、さんぼと家族は焦げ茶色の肌をし、目だけが白く光り、唇も部厚く描かれ、典型的な「人種」デフォルメが施されている。図65，図66は偕成社刊行の「ちびくろさんぼ」である。顔は粗く黒く塗られ、白い目がひときわ目立ち、唇も厚く「人種」デフォルメされている。他の絵本と異なりタイトルが「ちびくろさんぼのぼうけん」と「ぼうけん」物語なっている。

図63 「ちびくろさんぼ」
（バンナマン, 1965）

図64 「ちびくろさんぼ」
（バンナマン, 1965）

図65 「ぼうけん」
（バンナマン, 1966）

図66 「ぼうけん」
（バンナマン, 1966）

図67，図68は、講談社から出された「ちびくろサンボ」である。ことさら大きな「人種」デフォルメが認められるわけではないが、表紙を見てわかるように、さんぼの目だけが白く光っているところが目立つ。この点は「人種」デフォルメといわざるを得ないかもしれない。またこの挿絵でもさんぼは下着も何も身につけていなく、「素っ裸」で登場している。

図69，図70は集英社から出版された「ちびくろサンボ」である。図70を見るとわかるように、さんぼの唇は「ちくわ」を輪切りにしたかのような縁取りした丸く厚い唇をしている。髪は縮毛というより、「おかっぱ」風に描写されている。唇が「人種」デフォルメされているといえよう。

図71，図72は、ひかりのくに刊行の「ちびくろ・サンボ」である。挿絵には真っ黒なさんぼが載っ

図67 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン, 1974c）



図68 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン, 1974c）

図69 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン, 1972a）

図70 「ちびくろサンボ」
（バンナーマン, 1972a）

図71 「サンボ」
（バンナーマン, 不詳）

図72 「サンボ」
（バンナーマン, 不詳）

図73 「サンボ」
（バンナーマン, 1970b）

図74 「サンボ」
（バンナーマン, 1970b）

図75 「サンボ」
（バンナーマン, 1970b）

ている。お母さんのマンボも、お父さんのジャンボも共に真っ黒に彩色されている。髪は、縮毛である。白いドングリ眼だけが目立つ。唇は赤く縁どりされ、厚みをもたせている。眉や鼻は真っ黒な顔にとけ込み、まったく区別できない。黒の強調と厚い唇に「人種」」デフォルメを認めることができる。図73, 図74, 図75は旺文社刊の「ちびくろサンボ」である。肌の色は真っ黒ではないが、黒い肌に白く光る目と厚い唇をしたさんぼと家族が登場する。母親の「マンボ」の唇は「黒人」ステレオタイプに典型的な分厚い唇になっており、「人種」デフォルメが施されていることがわかる。

図76, 図77はポプラ社刊行の「さんぼ」である。唇の描写などに極端な「人種」デフォルメは認められない。とはいえ、黒い肌に眉が省略され、まん丸の「ドングリ」眼が特徴的である。トラに身ぐるみ剥がされたさんぼは、パンツも着けず、身ぐるみ剥がされて丸裸にされた姿で描かれている。

図78, 図79は、偕成社発行の「ちびくろサンボのぼうけん」である。この絵本は、岩波書店の「ち

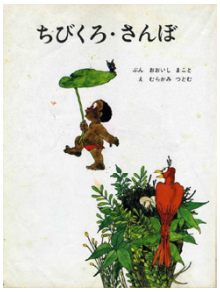


図76 「さんぼ」
（バンナーマン, 1968c）

図77 「さんぼ」
（バンナーマン, 1968c）

図78 「サンボ」
（バンナーマン, 1969）

図79 「サンボ」
（バンナーマン, 1969）

びくろさんぼ」に似て「サンボ」と父親の「ジャンボ」と母親の「マンボ」は真っ黒な肌に丸くて白い目をし、ちくわを輪切りにしたような「しまりのない」口・唇をしている。版画風に白黒で描写されており、白と黒のコントラストの中に、肌の黒さが読者に強く映る。真っ黒な肌に眉は埋も

れ、顔の輪郭もまったく描き出されていない。ジャンボもマンボも同様に描かれ、「黒人」を強調する典型的な「人種」デフォルメが認められる。

図80，図81，図82，図83は、人形劇の台本に載った「チビクロ・サンボ」である。人形劇団ひとみ座の制作したものである。観客を前にどのような点に注意して劇を演出しているか見てみよう。「この作品には、南国にふさわしいカラリとした感じと、情動的なリズムが大切です。…ただ、南国にも哀愁はありますし抒情性もある筈であるから、カサカサした味気ないものにはしない様に注

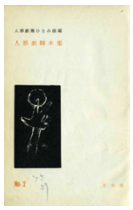

図80 「サンボ」
（バンナーマン，1957）

図81 「チビクロサンボ」
（バンナーマン，1957）

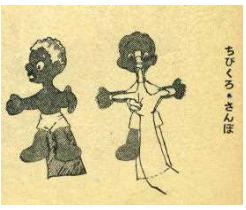


図82 「チビクロサンボ」
（バンナーマン，1957）

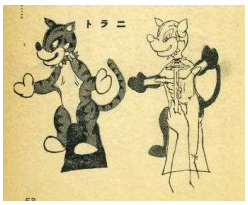


図83 「チビクロサンボ」
（バンナーマン，1957）

意して下さい。…誇張され、単純化された表現が必要です。…演技表現の上でも言えることです。相当にデフォルメされた表現と、セリフがなくても解る位に吟味された動きが欲しいものです」。強調的表現の重要性が指摘されている。ストーリーは家族の温かみと「さんぼ」の子どもらしい

図84 「タッグ…」
（バンナーマン，1972b）

図85 「タッグ」
（バンナーマン，1972b）

図86 「…みんご」
（バンナーマン，1971）

図87 「…みんご」
（バンナーマン，1971）

図88 「…みんご」
（バンナーマン，1971）

機知を演出するよう心がけている。「この作品の演出の基本は、サンボ一家の愛情の豊かさと、トラ達の自己中心性のコントラストを画くことです。サンボの子供らしい“思いつき”や“悲しみ”や“喜び”を南国的雰囲気の中で力一杯表現することです。トラ達の愚かな自己中心性を軽いタッチで画くことです」。人形劇では、サンボは機転の利く、賢い子どもであり、家族の温かい人間関係を描き出すことが、一つのねらいになっている。

ヘレン・バンナーマンの作品は「ちびくろさんぼ」だけではない。「ちびくろさんぼ」出版の後、姉妹編ともいえる絵本を何冊か刊行している。以下では、日本語に訳された「ちびくろさんぼ」以外のバンナーマンの絵本作品をとり上げ、挿絵の「人種」デフォルメ」について吟味する。

図84，図85は、前掲の図69の「ちびくろサンボ」の後編として同じ本に掲載されている「タッグ・ラッグ・ボブテイル」である。挿絵画家が同じ人であるので、「人種」デフォルメもさんぼの挿絵と同様に施されている。図86，図87，図88は、ポプラ社刊行の「ちびくろ・みんご」である。みんごの物語は、図54に掲載した「ちびくろ・さんぼ」の後半に編集・掲載されているものである。影絵風に挿絵が描かれているが、ワニの目を見ると赤く彩色されており、必ずしも影絵ではないことがわかる（図88）。真っ黒なみんごは、闇夜に光る獣の目のように白抜きにされている。みんごの肌の黒さを象徴的に表現するために影絵のように描写しているのであろう。

図89，図90は、図73，図74，図75でとりあげた「ちびくろ・さんぼ」に含まれた第二編めの作

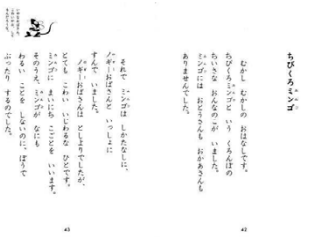

図89 「ちびくろミンゴ」
（バンナーマン，1970b）

図90 「ちびくろミンゴ」
（バンナーマン，1970b）

図91 「…ぼっぷ」
（バンナーマン，1968d：図90，91）

図92「ぼっぷ」

品「ちびくろミンゴ」である。ミンゴとお母さんは、前掲の「ちびくろサンボ」と同じ容姿に描かれ、「人種」デフォルメが施されている。図91，図92は、ポプラ社から出された「ちびくろ・ぼっぷ」である。この本も「ちびくろ」シリーズの一冊である。人気を博した「ちびくろさんぼ」のあとを追い、バンナーマンが創作した絵本である。紹介文によれば、「ちびくろ・ぼっぷ」は、原題を「ちびくろ・ぼぶているのはなし（The Story of Little Black Bobtail）」といった。出版社の依頼でバンナーマンが、第二作として1909年に発表した絵本である。「ちびくろ・たっぐ」、「ちびくろ・らっぐ」、「ちびくろ・ぼっぷ」の兄と二人の妹が、大洪水の川から海へ出、荒海を航海し、北極に行き、シロクマと遭遇する冒険物語である。唇が厚く強調されているわけではなく、肌も真っ黒に塗りつぶされてはいない。しかし、三人とも眉は省略され、目は丸く大きな白目に小さな瞳が配置されていて、部分的に「人種」デフォルメを認めることができる。

以上でとりあげた挿絵の例示から、バンナーマンの原作とは異なるいろいろな「ちびくろ・さんぼ」が描き出されてきたことを容易に理解することができる。

表４は、本稿でとりあげた絵本「ちびくろさんぼ」（1988年までに刊行されたもの）の一覧である。絵本のそれぞれの挿絵に前掲の四種類（「黒い肌の強調」、「眉の省略」「唇の厚さの強調」「丸く白い目の強調」）のデフォルメが認められるか否かを整理した蘭を見ていただきたい。「人種」デフォルメされていない挿絵も何冊か出版されている。しかし、大半の挿絵は何らかの「人種」デフォルメを「さんぼ」、「じゃんぼ」、「まんぼ」、および「ちびくろ」キャラクターに施している。さんぼの挿絵には、眉、目、肌の色、唇など、身体的特徴の誇張、カリカチュア、デフォルメが、一般化していたことが裏づけられ、「人種」デフォルメが多くの人々に違和感なく受け入れられてきたことを実証するものである。とりわけ、デフォルメされる身体部位は、唇が多い。「おちょぼ口」風に円形に厚みのある唇もあれば、薄い唇ではあっても「縁どり」をし、「唇」を際だたせる描き方をしているものもある。ほとんどの挿絵は共通して、「さんぼ」キャラクターの目を丸く描いている。白目が大きい「むき出し」の目が特徴である。眉が描かれていない「さんぼ」キャラクターも多く登場している。髪は、「縮れ毛」のアフロヘアーであったり、黒く彩色され肌と区別されない場合もある。「人種」デフォルメか否かを判断するのには明確で画一的な客観的基準があるわけではなく、容易ではない。他の身体部位の描写との対比による判断、キャラクターの全体像から醸し出されるイメージによる判断、等々、主観的な解釈が入り込む余地があることは否めない。しかし、描写されたものの解釈、意味の理解は、受け手である読者や視聴者にゆだねられるものであり、一通りの理解や解釈のみが妥当というわけではない。事例の検証を積み重ねることで、仮説の一般的妥当性と真偽を検討することが可能であると考える。

表５は、「ちびくろさんぼ」が絶版になった1989年以降に出版された絵本だ。瑞雲舎の絵本は、かつて広く「愛読」された岩波版の「ちびくろさんぼ」をそのまま二分冊にして復刻したものであ

## 表４　絵本「ちびくろ・さんぼ」の挿絵に認められるデフォルメ（1988年まで）

| 原作 | 文・絵・訳 | 編・監修 | 出版年 | タイトル | 出版社 | デフォルメ（目） | デフォルメ（唇） | デフォルメ（眉） | デフォルメ（肌色） | デフォルメ（縮毛） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Hellen Bannerman | | | 1899 | THE STORY OF LITTLE BLACK SAMBO | REINHARDT BOOK | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | 村山吉雄 | | 1924 | 虎 | 赤い鳥（第13巻第2号；鈴木三重吉主宰），40-43. | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | へれん・ばんなーまん　ぶん　ふらんく・どびあす　え　　光吉夏弥　やく | | 1953 | ちびくろ・さんぼ1 | 岩波書店 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | へれん・ばんなーまん　ぶん　ふらんく・どびあす　え　　光吉夏弥　やく | | 1953 | ちびくろ・さんぼ2 | 岩波書店 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | 清水浩二作 | 人形劇団ひとみ座編 | 1957 | チビクロ・サンボ（人形劇脚本集　第二集） | 未来社 | ○ | ○ | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | 小島貝画・教育画劇制作・貝塚せい子脚色 | | 1965 | ちびくろさんぼ（紙芝居） | 教育画劇 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | じんぐう　てるお・ぶん/せがわ　やすお・え | | 1966 | ちびくろサンボのぼうけん | 偕成社 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | 川崎大治脚本・川俣英五郎画 | | 1967 | ちびくろさんぼ（紙芝居） | 童心社 | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| ヘレン・バンナマン | 白木　茂 | 新幼児童話研究会 | 1968 | ちびくろさんぼとふたご | ひかりのくに | ○ | ○ | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | 伏谷さち子訳/高橋宏一絵 | 日本標準の小学生文庫編集委員会/阪本一郎・滑川道夫 | 1968 | チビクロ・サンボ | 日本標準テスト研究会・図書出版部 | × | ○ | × | × | × |
| Hellen Bannerman | おおいし　まこと　ぶん/むらかみ　つとむ　え | | 1968 | ちびくろ・さんぼ | ポプラ社 | ○ | × | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | おおいし　まこと　ぶん/むらかみ　つとむ　え | | 1968 | ちびくろ・ぽっぷ | ポプラ社 | ○ | × | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | 神宮輝夫文・司修絵 | | 1969 | ちびくろサンボのぼうけん | 偕成社 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | おおいし　まこと　ぶん/おのき　がく　え | | 1970 | ちびくろ・さんぼ | ポプラ社 | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | おおいし　まこと　ぶん/おのき　がく　え | | 1970 | ちびくろ・みんご | ポプラ社 | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | 森いたる文/深沢邦朗絵 | 波多野勤子/浜田廣介/村岡花子監修 | 1971 | ちびくろサンボ | 小学館（目次挿絵） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | 森いたる文/深沢邦朗絵 | 波多野勤子/浜田廣介/村岡花子監修 | 1971 | ちびくろサンボ | 小学館 | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | 大石真文・西原比呂志絵 | 浜田廣介・海後宗臣・曽野綾子監修 | 1972 | ちびくろサンボ | 集英社 | ○ | ○ | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | 大石真文・西原比呂志絵 | 浜田廣介・海後宗臣・曽野綾子監修 | 1972 | タッグ・ラッグ・ボブテイル | 集英社 | × | × | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | 大石真文/石鍋芙佐子絵 | 関英雄・塚原亮一編 | 1974 | ちびくろ・さんぼ | 金の星社 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | 間所ひさこ文・滝原章助絵 | 白木茂編集/井上靖・波多野完治・湯川秀樹編 | 1974 | ちびくろさんぼ | 講談社 | × | ○ | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | 宮川やすえ文/小野木学絵 | 木下一雄・波多野完治・浜田廣介監修 | 1974 | ちびくろサンボ | 講談社 | ○ | × | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | 井江春代画/天神しずえ文 | | 1974 | ちびくろ・サンボ | ひかりのくに | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | 森いたる文/童公佳絵 | | 1977 | ちびくろ・さんぼ | 金の星社 | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| Hellen Bannerman | バンナーマン・さく/はたの　いそこ・ぶん | 神宮輝夫・滑川道夫・福田清人・山室静 | 1978 | ちびくろサンボ | 旺文社 | ○ | ○ | ○ | × | × |
| Hellen Bannerman | バンナーマン・さく/はたの　いそこ・ぶん | 神宮輝夫・滑川道夫・福田清人・山室静 | 1978 | ちびくろミンゴ | 旺文社 | ○ | ○ | × | × | × |
| Hellen Bannerman | 平田昭吾文　イノウエ智画 | | 1978 | ちびくろサンボ | ポプラ社 | ○ | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | 中山知子文/太田大八絵 | | 1979 | ちびくろサンボ | 講談社 | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | 谷村まち子文　菊池貞雄・蒲田又治絵 | | 1982 | ちびくろさんぼ | ポプラ社 | × | ○ | × | × | × |
| Hellen Bannerman | 筒井敬介文　リチャードソン絵 | 高橋健二・金田一春彦 | 1983 | ちびくろサンボ | 小学館 | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | 平田昭吾著　成田マキホ画 | | 1987 | ちびくろサンボ | 永岡書店 | × | ○ | × | × | × |

注　赤い○印は「人種」デフォルメが認められることを、×印は「人種」デフォルメが認められないことを表す.

## 表５　絵本「ちびくろ・さんぼ」の挿絵に認められるデフォルメ（1989年以降）

| 原作 | 文・絵・訳 | 編・監修 | 出版年 | タイトル | 出版社 | デフォルメ（目） | デフォルメ（唇） | デフォルメ（眉） | デフォルメ（肌色） | デフォルメ（縮毛） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Hellen Bannerman | ヘレンバナマンぶん/阪西明子え/山本まつよ　やく | | 1989 | ブラック・サンボくん | 子ども文庫の会 | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | ジュリアス・レスターぶん/ジェリー・ピンクニーえ/さくまゆみこやく | | 1997 | おしゃれなサムとバターになったトラ | ブルース・アンターアクションズ | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | H.バンアーマンさく/F.マルチェリーノえ/せなあいこ　やく | | 1998 | トラのバターのパンケーキ | 評論社 | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | なだもと　まさひさ | | 1999 | ちびくろさんぼのおはなし | 径書房 | × | × | × | × | × |
| Hellen Bannerman | へれん・ばんなーまん　ぶん　ふらんく・どびあす　え　　光吉夏弥　やく | | 2005 | ちびくろ・さんぼ | 瑞雲舎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Hellen Bannerman | へれん・ばんなーまん　ぶん　ふらんく・どびあす　え　　光吉夏弥　やく | | 2005 | ちびくろ・さんぼ２ | 瑞雲舎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

注　赤い○印は「人種」デフォルメが認められることを、×印は「人種」デフォルメが認められないことを表す.

る。したがって、「人種」デフォルメも当時のままである。径書房の「ちびくろさんぼ」は、バンナーマンの原作を復刻したものであり、「人種」デフォルメは含まれていない。それに対して、他の３冊の絵本は、登場するキャラクターを写実的に描写し、「人種」デフォルメは一切施されていない。ストーリーの面白さを生かした現代版の絵本に仕上げている点が特長である。

**「ちびくろさんぼ」の復刻**　「ちびくろさんぼ」が絶版になった経緯と、日本で出版された絵本「ちびくろ」シリーズの挿絵に見られる「人種」ステレオタイプ、デフォルメを例証した。「黒人」を象徴的に表すデフォルメが全く認められない「ちびくろさんぼ」もあったが、ほとんどの挿絵で象徴的な描写が認められた。これは、私たちの脳裡には「黒人」に対する定型的な視覚イメージ、人種ステレオタイプが強く存在することを間接的に明らかにするものである。絵本「ちびくろさんぼ」の発刊停止が相次いだのが1988年頃であった。その後活発な議論が交わされたが、未だに「ちびくろさんぼ」の廃刊・発刊には賛否両論がある（市川，1998、エリザベス・ヘイ，1993、瀧本，1999，径書房，1999）。論争と“混乱”状態を抜け、現在ではヘレン・バンナマンの原作を復刻した絵本が出版されている。本稿で掲載した図７は、グリーンハウス（GREENHOUSE；バージニア州）から1996年に出版されたバンナマンの原作のコピー版である。図93も、径書房から

図93　「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン，1999）

図94　「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン，1999）

1999年に刊行された原作の「ちびくろさんぼのはなし」である。図94は、最も物議を醸した「ちびくろさんぼ」の挿絵といってよいのかもしれない。「人種的」特徴を象徴的に描写し、誇張してデフォルメされているからである。初版は1953年に岩波書店から出版され、1978年時点で28版を重ねていた。抜群の人気だったことがわかる。絶版を経て2005年に瑞雲舎が、岩波書店版をそのまま復刻して出版している。図95，図96，図97は、同様に岩波書店版の「ちびくろさんぼ」と「ふたご」の再録である。もともと岩波書店刊行の「ちびくろさんぼ」には、二話が一緒に収められていたが、瑞雲舎の新版では二分冊になっている。

図95　「ちびくろさんぼ」
（バンナーマン，2005a）

図96　「ちびくろ　さんぼ」
バンナーマン，2005b）

図97　「ちびくろ　さんぼ」
（バンナーマン，2005b）

「ちびくろさんぼ」の復刊を契機に、人種差別と偏見について歴史的背景を学び直すことは、日本の「人種」「民族」差別と偏見を深く考えることにもつながる。また、坂西（2017a, 2017b）で考察したように、「人種」・「民族」問題に限らず、近代から現代に至るまでのマイノリティに対す

る差別と偏見を、日本の植民地主義・太平洋戦争と結びつけて改めて考えることも重要である（坂西，2005）。

## 考察

本研究では、「人種的」「民族的」ステレオタイプの存在を、絵本を分析材料にして例証した。ステレオタイプとは、例えば、日本人の「細い目」、「つり上がった目」、「黄色の肌」などの外観、あるいは「控えめ」「消極的」など内面の特徴が強調され、ある集団メンバーは皆同じ特徴を持つと認識する傾向である。対象は多様である。人種ステレオタイプでは、アフリカ系の人々に対して、肌の色を殊更強調して黒くしたり、縮毛を誇張したりすることも行われる。ステレオタイプは、対象に対する知識・情報的側面を表し、相手に対する否定的感情を伴うわけではない。したがって、相手を蔑視したり侮蔑しだりすることと同義ではない。また、対象に対する嫌悪や憎悪などの強い負の感情が伴うことが多い偏見とも区別される。とはいえ、対象に対するステレオタイプの認知は、否定的な感情と結びつくことで偏見に発展する可能性がある。偏見は、態度の一つと考えられ、認知、感情、行為傾向の各要素が主要な構成要因として仮定されている。ステレオタイプは、偏見の感情と行為傾向の二要因を欠く認知的要因であり機能であるともいえよう。ステレオタイプは、認知的要素に感情・行為傾向の要素が加わることにより偏見に質的に変化すると予測できる。したがって、偏見がどのように形成・強化されるのかを明らかにするには、ステレオタイプの性質を吟味することは大きな意味を持つのである。

研究では、人種的ステレオタイプが、絵本の挿絵など視覚的資料でさらに誇張されて描写・提示されることに注目した。アフリカ系の人々の容貌や身体的特徴（黒い肌、縮毛、唇の厚さ等）を誇張し変形（デフォルメ）することによって、特定の人種、民族、集団を視覚的に容易に区別できる形で表現するのである。

絵本や児童書は、偏見や差別の「眼」を持たない子を対象にすることが多いから、「可愛らしい」挿絵やイラストを添えることに問題はないと考えるかもしれない。しかし、否定的あるは戯画的にデフォルメされた人種的・民族的、さらにその他のマイノリティの人々を「無垢な」子どもに提供することは、偏見や差別に結びつく可能性のある「ステレオタイプ」の認知を形成する機会になることに注意が必要だ。否定的ステレオタイプを基に人々を「カテゴリー化」することは、偏見や差別の最も基本的な要素になるからである。

人種的偏見、民族的偏見、性（性指向）的偏見、疾病に関わる偏見、偏見と差別は社会に広く存在している。差別と偏見を低減させ、外集団相互の親しみと融和を如何にして進めることができるのか。アメリカでは1950年代まで、人種隔離（desegrigation）が行われていた。人種差別や民族差別とが禁止される公民権法が制定されるのが1964年である。本稿の最初で取り上げたミンストレルショーは、公民権法成立以前の人種差別を徹底した「ジムークロー法」（1876－1964）を想起させるものだ。公民権法は1950年代から1960年代に進む人種間の融和の運動を反映している。Jane Elliot（1985）は、子どもたちの「眼の色」で「人間的優劣を決め」、行動を制限すると、対立・反感といった「人種差別」の芽が生まれることを「実験授業」で教えようとした。これは1960年題後半のことだった。

心理学で、差別と偏見を減少させる試みと理論的考察が行われてきた。「接触仮説（contacttheory）」は、初期の主要な試みである。その主張は、多様なグループ間の接触（関わり

合い）を増やしていくと外集団に対する肯定的な評価を増し、偏見とステレオタイプを減少させるというものだ。人種隔離が行われていた時代背景を反映した研究といえよう。接触が増えることにより外集団成員に対する態度は肯定的になる場合があることが確認されてきた。しかし、「異人種」や「異民族」に間の接触と触れ合いを増やせば、両者のお互いに対する感情が好転し、相互親和性と受容が単純に高まるわけではない。外集団に対するステレオタイプの認知と否定的感情を緩和させ、肯定的なものに転換するには、多くの条件が必要であることが示唆されている。お互いに対等な「地位」にあること、協同的関わりがあること、穏やか和やかな雰囲気に集団を置くこと、互いの集団が目指し協調できるより上位の目標を共有できるように設定すること、等々である。

その後、内集団と外集団の違いを捉え直すよう促し、「人種カテゴリー」をより高次のカテゴリーで再構成させる「修正接触仮説」、外集団の異なる特徴を目立たなくし（服装の違い等）、相互の区別を減少させ、集団の融和を促し新たな内集団としてのアイデンティティを生み出す「大きい目標の設定（内集団アイデンティティ共有仮説）」、自ら保持する信念間の矛盾に気づかせ、認知的不協和を利用して肯定的態度変容を促す（信念対決テクニック）、教育・協同的学習による理解促進、等々である（WhitleyandKite, 2006））。

現実を見ると、「人種的」・「民族的」ステレオタイプにとどまらず、嫌悪や憎悪、悪感情を特定の集団と成員に対して向け、行動に表すことも頻繁に起きている。「サッカーの外国人選手を差別する書き込み…」（NHK, 2017）、「『…議員アメリカは奴隷の黒人が大統領』発言…」（ログミー, 2016）。「黒人はオランウータン似」（AFPBB, 2013）、「黒人だから…教会が結婚式拒む」（時事通信, 2012）、「警官・黒人の信頼崩れ射殺・報復の連鎖」（毎日新聞, 2016）、「トランプ氏勝利後の差別多発…」（NHK, 2016）等、欧米でも差別、偏見の問題は頻発し、深刻な社会問題である。困難な研究であるが、解決の手がかりは少しずつ得られている。

引用文献


AFPBB（2013）イタリア初の黒人閣僚は「オランウータン似」、野党議員の発言に批判殺到７月16日（http://www.afpbb.com/article/politics/2956077/11043520?utm_source=yahoo&utm_medium=news&utm_campaign=txt_link_Fri_r2）

朝日新聞（1996）原作を正確に　６月７日

朝日新聞（1999）オリジナル版再現　６月３日）

朝日新聞（2003a）なぜ「ちびくろサンボ」か　２月３日

朝日新聞（2003b）「あれはインドのギーなんです」３月19日朝日新聞（2003c）「さんぼ」の復活を」12月11日

朝日新聞（2005a）米で復刊「さんぼ再考」12月11日朝日新聞17年ぶりに復刊　４月19日

朝日新聞（2005b）「懐かしい絵本」５月15日

朝日新聞（2018）「笑ってはいけない」批判広がる　顔面黒塗りなぜNG？　１月18日（https://www.asahi.com/articles/ASL1J5S39L1JUCLV012.html?ref=nmail）

バンナーマン（HellenBannerman）（1899）The Story of Little Black SAMBO REINHARDTBOOK

バンナーマン（Hellen Bannerman）（1999）ちびくろさんぼのおはなし（なだもと　まさひさ　やく）（Helen Bannerman（1899）The Story of Little Black SamboRaggedBears）径書房

バンナーマン（HellenBannerman）（1929）虎（村山吉雄作）赤い鳥（第13巻第２号；鈴木三重吉主宰），40-43.

バンナーマン（HellenBannerman）（1957）チビクロ・サンボ（清水浩二作・人形劇団ひとみ座編、人形

劇脚本集　第二集）未来社
バンナーマン（HellenBannerman）（1965）ちびくろさんぼ（紙芝居）（小島貝画・教育画劇制作・貝塚せい子脚色）教育画劇
バンナーマン（HellenBannerman）（1966）ちびくろサンボのぼうけん（じんぐう　てるお・ぶん／せがわやすお・え）偕成社
バンナーマン（HellenBannerman）（1967）ちびくろさんぼ（紙芝居）（川崎大治脚本・川俣英五郎画）童心社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1968a）チビクロ・サンボ（日本標準テスト研究会・図書出版部　伏谷さち子訳／高橋宏一絵，日本標準の小学生文庫編集委員会／阪本一郎・滑川道夫）日本標準
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1968b）ちびくろさんぼとふたご（白木茂・新幼児童話研究会）ひかりのくに
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1968c）ちびくろ・さんぼ（おおいし　まこと／ぶん、むらかみつとむえ）ポプラ社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1968d）ちびくろ・ぼっぶ（おおいし　まこと　ぶん、むらかみつとむえ）ポプラ社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1969）ちびくろサンボのぼうけん（神宮輝夫文・司修絵）偕成社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1970）ちびくろ･みんご（おおいし　まこと　ぶん、おのきがくえ）ポプラ社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1970a）ちびくろ･さんぼ（おおいし　まこと　ぶん、おのきがくえ）ポプラ社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1970b）ちびくろサンボ（バンナーマン･さく／はたのいそこ･ぶん、みやたたけひこ・え）旺文社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1971）ちびくろサンボ（森いたる文、深沢邦朗絵、波多野勤子／浜田廣介／村岡花子監修　世界の童話９「ピノキ」所収）小学館
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1972a）ちびくろサンボ（大石真文・西原比呂志絵／浜田廣介・海後宗臣・曽野綾子監修）集英社
バンナーマン（Hellen Bannerman）（1972b）タッグ・ラッグ・ボブテイル（大石真文・西原比呂志絵／浜田廣介・海後宗臣・曽野綾子監修）集英社
バンナーマン（HellenBannerman）（1974a）ちびくろ・さんぼ（大石真文／石鍋芙佐子絵／関英雄・塚原亮一編）金の星社
バンナーマン（HellenBannerman）（1974b）ちびくろさんぼ（間所ひさこ文・滝原章助絵／白木茂編集／井上靖・波多野完治・湯川秀樹編集顧問）講談社
バンナーマン（HellenBannerman）（1974c）ちびくろサンボ（宮川やすえ文／小野木学絵、木下一雄・波多野完治・浜田廣介監修）講談社
バンナーマン（HellenBannerman）（1977）ちびくろ・さんぼ（森いたる文、童公佳絵）金の星社
バンナーマン（HellenBannerman）（1978a）ちびくろサンボ（平田昭吾文、イノウエ智画）ポプラ社
バンナーマン（HellenBannerman）（1978b）ちびくろサンボ（中山知子文／太田大八絵）講談社
へれん・ばんなーまん（HellenBannerman）（1953）ちびくろ・さんぼ（へれん・ばんなーまんぶん／ふらんく・どびあす　え／光吉夏弥　やく）岩波書店
バンナーマン（HellenBannerman）（1982）ちびくろさんぼ（谷村まち子文／菊池貞雄・蒲田又治絵）ポプラ社
バンナーマン（HellenBannerman）（1983）ちびくろサンボ（筒井敬介文、リチャードソン絵、高橋健二･金田一春彦）小学館
バンナーマン（HellenBannerman）（1987）ちびくろサンボ（平田昭吾著、成田マキホ画）永岡書店
バンナーマン（Bannerman, H.）（1997）（ジュリアス・レスター、ジエリー・ピンクニー，1997　おしゃ

れなサムとバターになったトラ（さくまゆみこ訳）ブルース・インターアクションズ）
バンナーマン（H. バンナーマン）（1998）トラのバターのパンケーキ　評論社（FRED MARLELLINO1996TheStoryofLittleBlackBABAJIHarperCollinsPublishers）
バンナマン（Bannerman）（1988）ちびくろさんぼ　岩波書店（ヘレン・バンナマン文、フランク・ドビアス絵、光吉夏弥訳）
バンナマン（ヘレン・バンナマンぶん、阪西明子、山本まつよやく）（1994）ブラック・サンボくん　子ども文庫の会
バンナマン（HelenBannerman）（1997）チビクロさんぽ（森まりも改作）北大路書房　バンナーマン（ヘレン・バンナーマン）（1998）トラのバターのパンケーキ―ババジくんのお話―（マルチェリーノ，フレッド絵、せな　あいこ訳）評論社（Banner man, Helen；Marcellino, Fred. 1997 The Story of Little BABAJI〉
Bannerman, H.（1996）The Story of Little Black SAMBO Greenhouse Publics Marshal: Hing Company.
坂西友秀（2005）近代日本における人種・民族ステレオタイプと偏見の形成過程　多賀出版
坂西友秀・土井容子（2006）障害者関連情報への接触と介護体験が対障害者態度に及ぼす影響　埼玉大学紀要教育学部（教育科学）55(1)，1-20
坂西友秀（2013）児童書と人種ステレオタイプ・偏見　武蔵野（埼玉大学図書館）13号，9-15.
坂西友秀（2017a）人種・民族差別・偏見と態度研究（Ⅰ）―近代・現代の「人種」・「民族」差別と偏見―埼玉大学紀要　教育学部，66(2)：331-354
坂西友秀（2017b）人種・民族差別・偏見と態度研究（Ⅱ）―日本の人種・民族差別・偏見と態度研究―埼玉大学紀要　教育学部，66(2)：355-376
バンナーマン（Hellen Bannerman）発行年不明　ちびくろ・サンボ（井江春代画、天神しずえ文）ひかりのくに
ボスキン（ジョゼフ・ボスキン）（2004）サンボ―アメリカの人種偏見と黒人差別（斉藤省三訳）明石書店（Joseph Boskin（1986）Sambo: TheRise & Dmiseofan American Jester. Oxford University Press）
芳賀徹・酒井忠康・清水勲・川本晧嗣・新井潤美（2002）ワーグマン素描コレクション上　舶来文化　岩波書店
林文俊・津村俊充・鹿内啓子（1985）顔写真による相貌特徴と性格特性の関連構造の分析　名古屋大学教育学部紀要（教育心理学教室）24，35-42.
福嶋礼子（1990）ちびくろ・さんぼ問題―その発端と経緯　子どもの本の明日を考える会編『ちびくろ・さんぼ』はどこへいったの？　子どもの本の明日を考える会発行　pp.12-13.
へれん・ばんなーまん（Hellen Bannerman）（2005a）ちびくろ・さんぼ（へれん・ばんなーまん　ぶん、ふらんく・どびあす　え、光吉夏弥　やく）瑞雲舎
へれん・ばんなーまん（Hellen Bannerman）（200b）ちびくろ・さんぼ２（へれん・ばんなーまん　ぶん、ふらんく・どびあす　え、光吉夏弥　やく）瑞雲舎
法務省（2016）本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（平成二十八年法律第六十八号）（http://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/ elaws_search/lsg0500/detail?lawId=428AC1000000068&openerCode=1#A）
法務省（2017）外国人差別の実態調査４割近くが入居拒否の経験　３月31日（http://www3.nhk.or.jp/news/html/20170331/k10010931991000.html?utm_int=news-social_contents_list-items_002）
石井研堂（1997a）明治　事物起源　第３巻　筑摩書房（「横浜紀事」（高川惟文），pp.97-98.）
石井研堂（1997b）明治　事物起源　第３巻　筑摩書房（「安政動乱記」，p.100）
Jane Elliot（1985）青い目、茶色の目～教室は目の色て分けられた～ A CLASS DIVIDED制作　WGBH（アメリカ1985年）

時事通信（2012）「黒人だから」と教会が結婚式拒む＝米ミシシッピ州７月29日（http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20120729-00000045-jij-ent）
神奈川県立歴史博物館（2003）ペリー来航150周年記念　黒船　神奈川県立歴史博物館
レスター，J.（ジュリアス・レスターぶん、ジュエリー・ピンクニーえ）（1997）おしゃれなサムとバターになったトラ（さくまゆみこ　やく）ブルース・インターアクションズ（Lester, J. & Pinkney J. 1996 SAM AND THE TIGER Dial Books for Young Readers.）
レスター，J.（ジュリアス・レスター文、ロッド・ブラウン絵）（1999）あなたがもし奴隷だったら…（片岡しのぶ訳）あすなろ書房
レスター，J.（2006）私が売られた日（金　利光訳）あすなろ書房（Lester, J. 2005 Day of Tears. Hyperion.）
毎日新聞（2013）〈ヘイトスピーチ〉「殺せ」…デモ、目立つ過激言動３月18日（http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20130318-00000043-mai-soci）
毎日新聞（2016）〈米国〉警官・黒人の信頼崩れ射殺、報復の連鎖　９月６日（http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160906-00000108-mai-n_ame）
中山知子（1978）「ちびくろサンボについて」（HellenBannerman1979ちびくろサンボ中山知子文／太田大八絵）講談社
内閣府（2017）「障害者への差別や偏見ある」80％超内閣府調査　10月１日（http://www3.nhk.or.jp/news/html/20170930/k10011163191000.html?utm_int=news-social_contents_list-items_008）
NHK（2017）サッカーの外国人選手を差別する書き込みがSNSに　９月26日
NHK（2016）司法長官トランプ氏勝利後の差別多発に懸念表明11月19日（http://www3.nhk.or.jp/news/html/20161119/k10010775071000.html?utm_int=news_contents_news-main_006）
日本図書館協会図書館の自由に関する調査委員会関東地区小委員会編（1990）「ちびくろサンボ」問題を考える　シンポジューム記録　日本図書館協会
ラッセル（ジョン・G・ラッセル）（1991）日本人の黒人観―問題はちびくろサンボだけではない―新評論
ラッセル（ジョン・G・ラッセル）（1995）偏見と差別はどのようにつくられるか―黒人差別・反ユダヤ意識を中心に―明石書店
ログミー（2016）（書き起こし）丸山和也議員「アメリカは奴隷の黒人が大統領」発言の全容　２月17日（http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160217-00010000-logmi-pol）
さくまゆみこ（1997）（ジュリアス・レスター，ジュエリー・ピンクニー　1997　おしゃれなサムとバターになったトラ　ブルース・インター・アクションズ）
心理學研究會（1924）心理研究　Vol.24　心理研究會
Shorter Oxford English Dictionaryon Histrical Principles. Fiftheition, Volume2, N-Z.（2002）Oxford UniversityPress.
Stuart Berg Flexner and Leonore Crary Hauck（Eds）（1987）THE Random House Dictionary of The English Language. Second Edition, Unabridged. Random House, NewYork.
鈴木三重吉主宰（1929）赤い鳥　第13巻第２号
TBSニュース（2018）Ｈ＆Ｍの広告、黒人への人種差別と南アでは店舗襲撃　１月15日（https://headlines.yahoo.co.jp/videonews/jnn?a=20180115-00000007-jnn-int）
Webster（A. Merriam Webster 9）（1986）Webster's Third New International Dictionary of The English Language Unabridged. Vol. III, S toZ Encyclopaedia Britanicam, Inc.
Whitley, JR., B. E. and Kite, M. E.（2006）The Psyhology of Prejudice and Dscrimnation. Thomson Wadsworth

（2018年３月30日提出）
（2018年４月５日受理）

# Were racial and ethnic prejudices overcome?

## —Verification of modern racial ethnic prejudice and discrimination by analysis of picture book “Déformé”—

**BANZAI Tomohide**
Faculty of Education, Saitama University

**Abstract**

In this research, we aim to “demonstrate” the existence of issues related to discrimination and prejudice at hand, while living casually in daily life. In “Illustration”, we examined the subjects of discrimination and prejudice focusing on the “race” problem. Here, “picture book” was used as a verification material. The main reasons for analyzing “picture books” are the following three points. ① “Picture book” is a thing that an infant or child who does not have prejudice / discrimination consciousness or has no consciousness reads love. ② “Picture book” often symbolically and typically draws characters (characters and protagonists) through pictures and illustrations, and discrimination or prejudice tends to be reflected in depiction. ③ In Japan, “racial prejudice (or discrimination)” is expressed in a form that can be visually confirmed by “race Déformé”, and it has reached the present day as a problem of repeated social problems. A picture book is one of typical representations that are visually expressed by illustration. We may strongly acknowledge that the members of the group have common attributes, characteristics, and properties, for a particular ethnic group or “race”, ignoring the individual’s human rights. This cognition is a stereotype. In this study, we revealed that “racial” stereotype exists by examining and verifying the characteristic, symbolic and emphasized depiction (deformed) depicted in the picture book. Cognition of stereotypes deeply penetrates into modern society and ties easily with prejudice and discrimination. In discussion, we discuss the relation between stereotype and prejudice and discrimination and examined reduction of them.

**Keyword:** racial ethnicity, prejudice, Déformé, sambo, picture book